

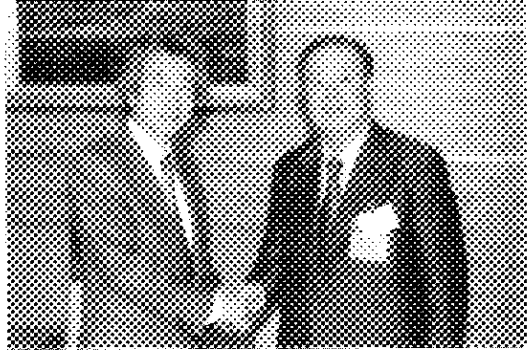
第36回 韓日・日韓經濟人會議

THE 36TH KOREA - JAPAN & JAPAN - KOREA
BUSINESS CONFERENCE

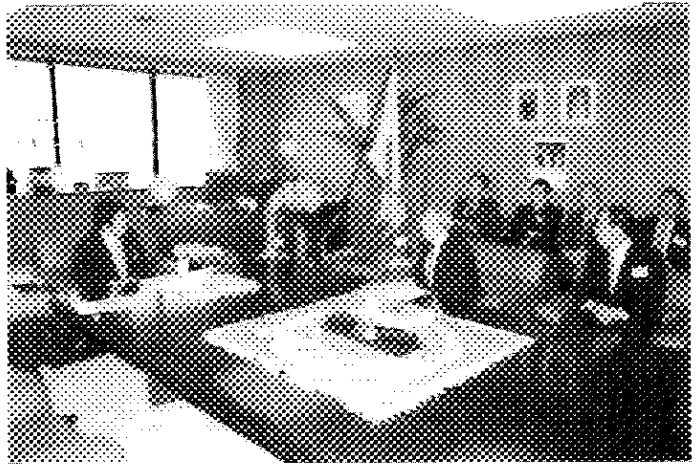
2004. 4. 22 ~ 24 NAGOYA, JAPAN

報 告 書

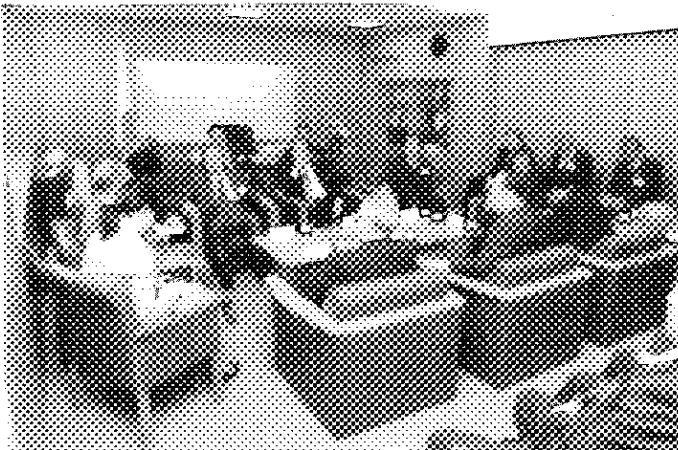
(社)韓日經濟協會



고이즈미 준이치로 내각총리대신 예방



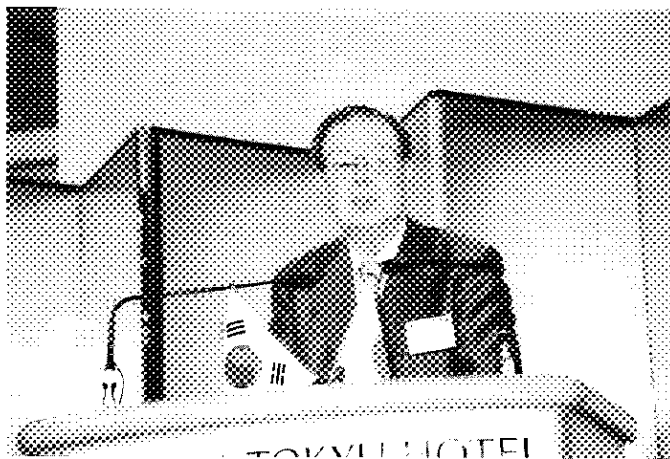
나카가와 쇼이치 경제산업대신 예방



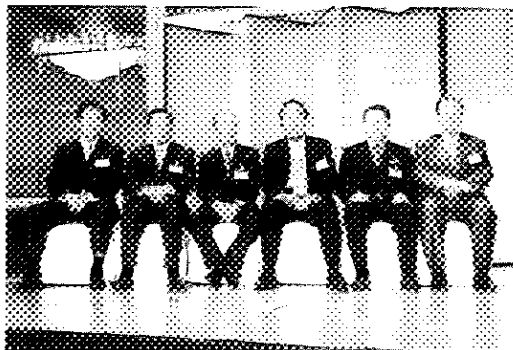
아라이 쇼고 외무대신정무관 예방



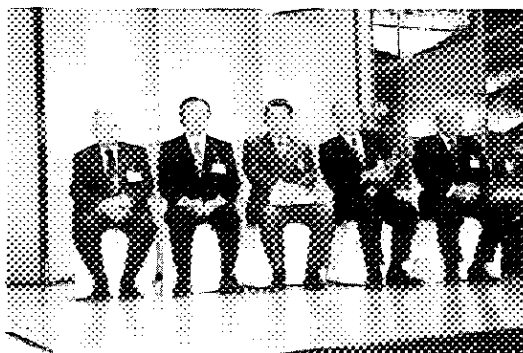
개 회 식



개회인사하는 김상하 한국측 단장



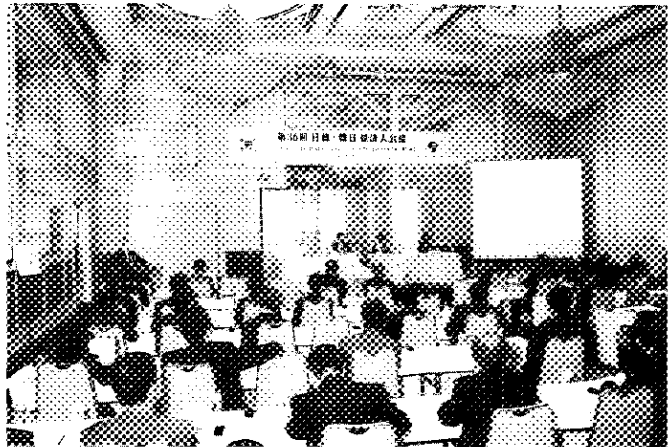
한국측 고문단과 내빈



일본측 고문단과 내빈



공동주최 리셉션



제1분과회



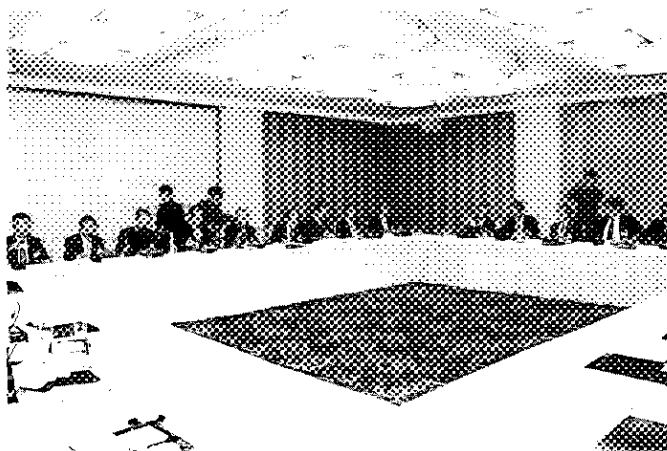
제1분과회 양국 코디네이터·발표자



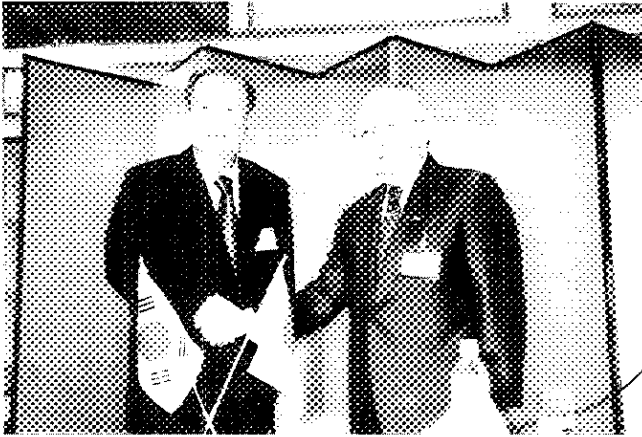
제2분과회



제2분과회 양국 코디네이터·발표자



공동성명(안) 심의 오찬회



회의를 마치고 인사하는 양측 단장



공동기자회견



토요타자동차공장 견학

目 次

I. 團長團 禮訪活動	3
II. 共同聲明	5
III. 日程 與 議題	8
IV. 兩側 代表團 名單	12
V. 開 會 式	
1. 團長人事	
瀨戶 雄三 日本側 代表團 團長	27
金 相 廈 韓國側 代表團 團長	28
2. 來賓祝辭・顧問人事	
神田 眞秋 愛知縣 知事	30
羅 鍾 一 駐日大韓民國特命全權大使	31
因田 義男 名古屋市助役(副市長)	33
金 在 哲 韓國貿易協會 會長	35
渡辺 修 日本貿易振興機構 理事長	36
VI. 基調演說	
1. 日本側 基調演說	
奧田 碩 日本經濟團體連合會 會長	39
2. 韓國側 基調演說	
姜 信 浩 全國經濟人聯合會 會長	45
VII. 全體會議 I	
1. 一般經過報告 (書面)	51
2. 韓日產業貿易會議 報告	
安武 史郎 日本側 차어맨代行	53
3. 韓日中堅經濟人交流미션 報告	
麻生 泰 日本側 團長	56
4. 韓日中堅中小企業委員會 報告	
田勢 修也 日本側 委員長	58

Ⅶ. 全體會議 Ⅱ

1. 日本側 主題發表
小倉 和夫 獨立行政法人 國際交流基金 理事長 60
2. 韓國側 主題發表
朴 鳳 圭 產業資源部 次官補 64
3. 地域側 主題發表
坂本 春生 (財)2005年日本國際博覽會協會 副會長 74

Ⅸ. 第 1 分科會

1. 日本側 백그라운드 페이퍼
篠原 徹 日本商工會議所 常務理事 98
2. 韓國側 백그라운드 페이퍼
河 炳 基 產業研究院 產業競爭力室 室長 117

X. 第 2 分科會

1. 日本側 백그라운드 페이퍼
上田 勝弘 (社)日本金型工業會 會長 158
2. 韓國側 백그라운드 페이퍼
金 學 權 韓國金型工業協同組合 理事長 162

XI. 閉 會 式

1. 分科會 코디네이터 報告
(1) 第 1 分科會 報告
麻生 泰 日本側 코디네이터 177
(2) 第 2 分科會 報告
安武 史郎 日本側 코디네이터 177
2. 團長人事
瀬戸 雄三 日本側 代表團 團長 178
金 相 廈 韓國側 代表團 團長 179

I . 團長團 禮訪活動

慣例에 依據 訪問國側 團長團 일행은 政府 首腦의 禮訪을 실시하고 있음. 이에 금번 韓國側 團長團은 小泉 純一郎(고이즈미 준이치로) 內閣總理大臣 이하 日本政府의 主要人事를 禮訪하였음. 이 자리에서 여러 가지로 어려운 時期에 日本을 訪問한 것에 感謝를 표명하였으며, 歷史와 傳統을 자랑하는 本 會議가 兩國 經濟界에 있어서 가장 代表的이고 중요한 民間 會議로써 韓日間에 새로운 關係構築과 協力強化를 위해서 솔직한 對話와 交流增進의 자리가 되기를 當付하였음.

1. 禮訪 實績

(1) 小泉 純一郎(고이즈미 준이치로) 內閣總理大臣 禮訪

- 日 時 : 2004. 4. 21 (水) 15:45~16:15

- 場 所 : 首相官邸

(2) 中川 昭一(나카가와 쇼이치) 經濟産業大臣 禮訪

- 日 時 : 2004. 4. 21 (水) 14:30~15:00

- 場 所 : 經濟産業省

(3) 荒井 正吾(아라이 쇼고) 外務大臣政務官 禮訪

- 日 時 : 2004. 4. 21 (水) 18:00~18:30

- 場 所 : 外務省

2. 禮訪人事 名單

No	姓 名	團體/職位	團 體 / 會 社 名
1	金 相 廈 KIM SANG HA	會 長 會 長	(社)韓日經濟協會 (株)三養社
2	朴 容 晟 PARK YONG SUNG	顧 問 會 長	(社)韓日經濟協會 大韓商工會議所
3	金 在 哲 KIM JAE CHUL	顧 問 會 長	(社)韓日經濟協會 韓國貿易協會

No	姓 名	團體/職位	團 體 / 會 社 名
4	金 容 九 KIM YONG GU	顧問 會長	(社)韓日經濟協會 中小企業協同組合中央會
5	羅 應 燦 RA EUNG CHAN	副會長 會長	(社)韓日經濟協會 (株)新韓金融持株會社
6	朴 世 英 PARK SEI YOUNG	副會長 會長	(社)韓日經濟協會 韓國PANTLAND(株)
7	薛 元 鳳 SULL WON BONG	副會長 會長	(社)韓日經濟協會 大韓製糖(株)
8	成 在 甲 SUNG JAE KAP	副會長 會長	(社)韓日經濟協會 LG石油化學(株)
9	禹 石 亨 WOO SUK HYUNG	副會長 會長	(社)韓日經濟協會 (株)SINDORICOH
10	劉 常 夫 YOO SANG BOO	副會長 常勤顧問	(社)韓日經濟協會 (株)POSCO
11	趙 錫 來 CHO SUCK RAI	副會長 會長	(社)韓日經濟協會 (株)曉星
12	崔 用 權 CHOI YONG KWON	副會長 會長	(社)韓日經濟協會 三煥企業(株)
13	玄 明 官 HYUN MYUNG KWAN	副會長 常勤副會長	(社)韓日經濟協會 全國經濟人聯合會
14	韓 元 碩 HAN WON SEK	專務理事	(社)韓日經濟協會

* 案內 吳 陪席：(社)日韓經濟協會 會長 瀬戸 雄三(SETO Yuzo)

駐日大韓民國特命全權大使 羅鍾一

II. 共 同 聲 明

第36回 韓日・日韓經濟人會議은 2004年 4月 22日, 23日 이틀간, 日本 나고야시(名古屋市)에서, 韓國側에서는 金相廈 團長 等 112名, 日本側에서는 세토 유조(瀬戸 雄三) 團長 等 101名, 그리고 名古屋市 企業人 33名이 參席한 가운데 開催되었다.

1. 全體會議에서는, 書面에 의한 一般經過報告, 第5回 韓日産業貿易會議 및 그 외 會議의 活動狀況에 관한 報告가 있었다.

(1) 第5回 韓日・日韓産業貿易會議 (2003年 11月, 日本 우라야스시<浦安市>)

(2) 第14回 韓日・日韓中堅經濟人交流미션 (2003年 9月, 서울)

… (同 交流 미션은 2003年 會議를 끝으로 解散한다)

(3) 韓日・日韓中堅中小企業委員會 會議

… (同 會議는 2003年の 實務協議를 끝으로 解散한다)

2. 먼저, 基調演說 等を 통해 兩國 經濟人은 兩國 經濟 및 兩國 關係에 대해서 다음과 같이 認識을 같이 하였다.

世界經濟는 美國經濟가 回復 傾向을 보이기 始作하고, 中國經濟도 繼續하여 好調勢를 維持하고 있다. 이와 같이 韓日 兩國을 둘러싼 經濟環境은 例年에 비해 한층 好轉되고 있다.

日本經濟는 長期間에 걸친 不況의 터널로부터 빠져나오기 始作하여 輸出과 設備投資에 加勢하여 個人消費도 回復되는 등 漸次 本格的인 回復 基調를 맞이하고 있다. 韓國經濟는 昨年에 輸出과 內需, 業種 및 企業間の 兩極化 등으로 어려운 1年이었으나 最近 輸出 好調를 背景으로 漸進的인 回復의 조짐을 보이고 있다.

한편, 最近의 韓日經濟關係는 글로벌 차원에서의 相互 提携가 더욱 緊密해지고 있다. 同時에 東아시아 地域에서는 貿易과 投資 自由化・圓滑化는 물론 經濟統合을 向한 努力이 持續되고 있다.

이러한 흐름 속에서 兩國 經濟人은 높은 수준의 連繫를 목표로 하는 韓日 FTA 締結 實現의 重要性을 充分히 認識하고 共生을 위한 戰略的 提携를 더욱 強化하는 것이 不可缺하다. 이를 위해서는 兩國 企業의 相互 補完 關係 構築과 젊은 世代의 人的交流 擴充이 그 어느 때보다 重要하다는데 認識을 같이 하였다.

3. 各 分科會, 全體會議에서의 意見發表와 討論을 통해 兩國 經濟人은 다음 事項에 대해 意見의 一致를 보았다.

(1) 兩國 經濟人은 韓日 FTA의 締結을 念頭に 두면서 兩國 中小企業의 活性化 方案에 대해 繼續해서 檢討하는 것은 매우 意義 있는 일이다. 특히, 오래 전부터 培養되어 온 相互 友好信賴關係를 鞏固히 하면서 未來 指向的으로 임하는 것이 바람직하다는 것을 確認하였다.

(2) 韓日 兩國은 中國經濟의 擡頭로 對中國 依存도가 深化되고, 一部 産業에서 産業의 空洞化 現象이 나타나고 있음을 指摘하였다. 이에 대해 兩國 經濟人은 서로 多様な 對應過程에 관한 現狀과 課題를 檢討하고, 兩國의 規制 改革 等에 의한 企業 및 投資環境의 改善, 技術革新 및 高附加價值化에 의한 競爭力 向上, 企業 自身の 體力 涵養 等이 重要하다는 점을 確認하였다.

(3) 兩國 經濟人은 相互 直接投資의 環境 整備와 擴充, 貿易의 擴大均衡, 重層的인 人的・文化交流 增進의 重要性을 認識하면서 緊密化의 度를 더욱 더 深化시켜 나가야 한다는 점을 再次 確認하였다.

(4) 日本側으로부터 韓日 파트너십 強化를 위한 提言, 韓國側으로부터 革新主導型 産業政策과 韓日經濟協力에 관한 說明, 2005年 日本國際博覽會協會로부터 國際博覽會「사랑・地球博覽會」에 대한 報告가 있었으며, 兩國 經濟人은 이에 대해 높은 關心을 表明하였다.

4. 各 分科會 및 全體會議에서의 提案 等에 관해 別添 事項에 合意하였다.

5. 다음 會議는 來年에 韓國에서 開催한다.

2004年 4月 23日

韓國側 代表團 團長 金 相 度

日本側 代表團 團長 瀨戶 雄三

〈別 添〉

合 意 事 項

- (1) 「産業貿易會議」開催에 協力하는 件
- (2) 「訪日輸出促進團」派遣과 그 受容에 協力하는 件
- (3) 兩國 「産業技術協力財團」事業에 協力하는 件
- (4) 「靑少年 交流事業」으로, 韓日 兩國의 大學生을 相互 派遣하고 그 受容에 協力하는 件 및 韓日 高校生 交流에 대해 協力하는 件
- (5) 中小企業 相互 補完 事業에 대해 協力하는 件
- (6) 기타, 韓日・日韓 兩協會의 合意下에 推進하는 事業에 協力하는 件

以 上

Ⅲ. 日 程 及 議 題

【團長團 禮訪】

4月 21日 (水)

10:00 - 12:00 金浦空港 - 羽田空港 (KE 6707)
午 後 主要機關 禮訪

4月 22日 (木)

11:13 - 12:56 東京驛 - 名古屋驛 (新幹線 のぞみ(のぞみ) 121號)
13:10 - 13:30 名古屋驛 - HOTEL (BUS)
13:30 HOTEL CHECK IN (名古屋東急HOTEL)

【團 員】

4月 22日 (木)

11:00 - 12:40 仁川空港 - 名古屋空港 (OZ 122)
13:10 - 13:40 名古屋空港 - HOTEL (BUS)
13:40 HOTEL CHECK IN (名古屋東急HOTEL)

【共 通】

14:30 - 15:20 開會式 ----- 3F ルネッサンス(르네상스)

《開會式 細部日程》

14:30 - 14:35	開會
14:35 - 14:45	兩側 團長人事 日本側：瀬戸 雄三(SETO Yuzo) (社)日韓經濟協會 會長 韓國側：金相廈 (社)韓日經濟協會 會長
14:45 - 15:20	兩側 來賓祝辭・顧問人事 日本側：神田 眞秋(KANDA Masaaki) 愛知縣 知事 韓國側：羅鍾一 駐日大韓民國特命全權大使 日本側：因田 義男(INDEN Yoshio) 名古屋市助役(副市長) 韓國側：金在哲 韓國貿易協會 會長 日本側：渡辺 修(WATANABE Osamu) 日本貿易振興機構 理事長

15 : 25 - 15 : 45 全體會議 I

《全體會議 I 細部日程》

一般經過報告 (書面)

15 : 25 - 15 : 31	韓日産業貿易會議 報告	安武 史郎	체어맨代行
15 : 32 - 15 : 38	韓日中堅經濟人交流미션 報告	麻生 泰	團長
15 : 39 - 15 : 45	韓日中堅中小企業委員會 報告	田勢 修也	委員長

15 : 45 - 16 : 45 全體會議 II

《全體會議 II 細部日程》

15 : 45 - 16 : 05	日本側 主題發表 小倉 和夫(OGURA Kazuo) 獨立行政法人 國際交流基金 理事長 前 駐韓日本國大使 「韓日關係의 展望」
16 : 05 - 16 : 25	韓國側 主題發表 朴鳳圭 産業資源部 次官補 「革新主導型 産業政策과 韓日經濟協力」
16 : 25 - 16 : 45	地域側 主題發表 坂本 春生(SAKAMOTO Harumi) (財)2005年日本國際 博覽會協會 副會長 「사랑・地球 博覽會 創造와 挑戰 - EXPO 2005 AICHI JAPAN」

16 : 45 - 17 : 00 COFFEE BREAK

17 : 00 - 18 : 00 兩側 基調演說

日本側：奧田 碩(OKUDA Hiroshi) 日本經濟團體連合會 會長
『日本과 韓國의 새로운 協力關係 構築을 향하여』

韓國側：姜信浩 全國經濟人聯合會 會長
『東아시아 域內協力과 韓日關係 發展方向』

19 : 00 - 20 : 30 RECEPTION (兩經濟協會・名古屋地域 共同主催)

----- 3F 바洛克(바로크)

4月 23日 (金)

09 : 00 - 11 : 20 各分科會別 會議

- 第 1 分科會 ----- 3F 바로크(바로크)

議題：「韓日 兩國의 産業空洞化 對策」

코디네이터 韓國側：李洙喆 三星物産(株) 副社長

日本側：麻生 泰(ASO Yutaka) 麻生CEMENT(株) 社長

發表者 韓國側：河炳基 産業研究院 産業競爭力室 室長

「韓國의 製造業 空洞化 現況 및 評價」

日本側：篠原 徹(SHINOHARA Toru) 日本商工會議所 常務理事

「商工會議所에 있어서 産業空洞化 問題에 대한 對策」

- 第 2 分科會 ----- 3F 로마네스크(로마네스크)

議題：「韓日 兩國의 中小企業 活性化 對策」

코디네이터 韓國側：李尹備 韓國中小企業學會 會長

日本側：安武 史郎(YASUTAKE Shiro) 双日(株) 特別顧問

發表者 韓國側：金學權 韓國金型工業協同組合 理事長

宰熾SOLUTEC(株) 社長

「韓日 FTA와 中小企業 活性化 對策」

日本側：上田 勝弘(UEDA Katsuhiko) (社)日本金型工業會 會長

大垣精工(株) 社長

「韓國 中小企業과의 交流 體驗」

《各分科會別 細部日程》

09 : 00 - 09 : 10 兩側 코디네이터 分科會進行 說明 및 코멘트

09 : 10 - 09 : 30 日本側 백그라운드 페이지 要約發表

09 : 30 - 09 : 50 韓國側 백그라운드 페이지 要約發表

09 : 50 - 10 : 10 COFFEE BREAK

10 : 10 - 11 : 10 自由討論

11 : 10 - 11 : 20 兩側 코디네이터 總括

11 : 30 - 13 : 00 午餐會

- 顧問・團長團・專門委員長・코디네이터 --- 4F 榮(사카에)
(共同聲明案 審議)

- 團 員 ----- 4F 雅(미야비)

13:00 - 13:20 閉會式 ----- 3F ルネッサンス(르네상스)

《閉會式 細部日程》

13:00 - 13:06	第1・2分科會 코디네이터 報告
13:06 - 13:10	共同聲明 採擇
13:10 - 13:20	兩側團長 人事
13:20	閉會

13:20 - 13:50 共同記者會見 (兩國 團長) ----- 3F バロック(바로크)

【OPTION PROGRAM】

14:00 - 15:00	HOTEL - 豐田市 (BUS)
15:00 - 17:00	TOYOTA自動車工場 見學
17:00 - 18:00	豐田市 - HOTEL (BUS)

4月 24日 (土)

13:40 - 15:40 名古屋空港 - 仁川空港 (OZ 121) [基本日程]

※ 09:30 - 11:25 名古屋空港 - 仁川空港 (KE 752)

IV. 兩側 代表團 名單

1. 韓國側 代表團 名單

順：職 資·가나다 順

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團 體 / 會 社 名
團 長	金 KIM	相 SANG	廈 HA	會 長	(社)韓日經濟協會 (株)三養社
顧 問	朴 PARK	容 YONG	晟 SUNG	顧 問 會 長	(社)韓日經濟協會 大韓商工會議所
"	姜 KANG	信 SHIN	浩 HO	顧 問 會 長	(社)韓日經濟協會 (社)全國經濟人聯合會
"	金 KIM	在 JAE	哲 CHUL	顧 問 會 長	(社)韓日經濟協會 (社)韓國貿易協會
"	金 KIM	容 YONG	九 GU	顧 問 會 長	(社)韓日經濟協會 中小企業協同組合中央會
副 團 長	金 KIM	熙 HI	勇 YONG	副 會 長	(社)韓日經濟協會 東洋物産企業(株)
"	羅 RA	應 EUNG	燦 CHAN	副 會 長	(社)韓日經濟協會 新韓金融持株會社
"	朴 PARK	世 SEI	英 YOUNG	副 會 長	(社)韓日經濟協會 韓國PENTLAND(株)
"	徐 SUH	敏 MIN	錫 SOK	副 會 長	(社)韓日經濟協會 東一紡織(株)
"	薛 SULL	元 WON	鳳 BONG	副 會 長	(社)韓日經濟協會 大韓製糖(株)
"	成 SUNG	在 JAE	甲 KAP	副 會 長	(社)韓日經濟協會 LG石油化學(株)
"	禹 WOO	石 SUK	亨 HYUNG	副 會 長	(社)韓日經濟協會 (株)SINDORICOH
"	劉 YOO	常 SANG	夫 BOO	副 會 長 常任顧問	(社)韓日經濟協會 POSCO
"	趙 CHO	錫 SUCK	來 RAI	副 會 長	(社)韓日經濟協會 (株)曉星
"	崔 CHOI	用 YONG	權 KWON	副 會 長	(社)韓日經濟協會 三煥企業(株)
"	玄 HYUN	明 MYUNG	官 KWAN	副 會 長	(社)韓日經濟協會 (社)全國經濟人聯合會

區 分	姓 名	團 體 會社職位	團 體 / 會 社 名
來 賓	羅 鍾 YIL RA JONG	特命全權 大使	駐日大韓民國大使館
特別參加	朴 鳳 圭 PARK BONG KYU	次 官 補	産業資源部
"	朴 承 復 PARK SEUNG BOK	會 長	SEMPIO食品(株)
"	辛 永 茂 SHIN YOUNG MOO	監代 事 表	(社)韓日經濟協會 法務法人 世宗
"	李 吉 鉉 LEE GIL HYUN	監會 事 長	(社)韓日經濟協會 (株)貝元
"	李 春 林 LEE CHUN LIM	理會 事 長	(財)韓日産業・技術協力財團 (株)TIS, INC
"	李 熙 健 LEE HEUI KEON	名譽會長	新韓銀行(株)
"	李 錫 瑛 LEE SUK YOUNG	副 會 長	(社)韓國貿易協會 産業貿易會議CHAIRMAN
"	李 鍾 燾 LEE CHONG HOON	共同議長	新ASIA經濟技術聯盟
團 員	姜 在 祚 KANG JAE JO	會 會 長 長	東南鑄物工業(株) 前 大邱商工會議所
"	金 德 吉 KIM DUK KIL	會 長	大永産業開發(株)
"	金 永 煥 KIM YOUNG HWAN	會 長	SUN INTERNATIONAL
"	盧 喜 燦 RO HEE CHAN	會 會 長 長	大邱商工會議所 三一紡織(株)
"	朴 城 亨 PARK SUNG HYUNG	會 會 長 長	新羅纖維(株) 前 大邱商工會議所
"	愼 泰 範 SHIN TAE BUM	會 長	KCTC
"	李 容 九 LEE YONG KOO	會 長	(株)進榮精機
"	李 尹 備 LEE YOON BO	會 長	韓國中小企業學會
"	李 昌 圭 LEE CHANG KYU	會 長	東岡MEDICAL SYSTEM
"	劉 載 晟 YOO JAE SUNG	會 長	泰昌鐵鋼(株)

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團 體 / 會 社 名
團 員	尹 YOON	鳳 BONG	秀 SOO	會 長	(株)南盛
"	尹 YOON	在 JAE	烈 YUL	會 長	(株)THREE R
"	韓 HAN	相 SANG	旭 WOOK	會 長	華城商工會議所
"	具 KOO	滋 CHA	烈 YOL	副 會 長	LG電線(株)
"	奇 KEE	秉 BYUNG	泰 TAE	副 會 長	大韓空調(株)
"	申 SHIN	德 DUCK	鉉 HYUN	副 會 長	(社)韓國優良製品振興協會
"	崔 CHOI	明 MYUNG	煥 HWAN	副 會 長	興和工業(株)
"	金 KIM	學 HAK	權 KWON	理 事 長	韓國金型工業協同組合
"	李 LEE	平 PYUNG	宇 WOO	相 談 役	(株)世亞製鋼
"	金 KIM		正 JUNG	代表理事	HANWHA STORES
"	金 KIM	江 KANG	熙 HEE	代表理事	(株)東和ENTEC
"	金 KIM	鍾 JONG	憲 HYON	代表理事	SUNHAN INFORMATION
"	金 KIM	洪 HONG	烈 RYUL	代表理事	東亞精密工業(株)
"	朴 PARK	在 JAE	圭 KYU	代表理事	PJK TECH
"	宋 SONG	錫 SEOK	俊 JOON	代表理事	(株)巨養
"	吳 OH	龍 YONG	根 KEUN	代表理事	(株)SAEHAN TECH
"	龍 YONG	乙 EARL	植 SHIK	代表理事	南德物產(株)
"	尹 YOON	鄭 JUNG	煥 WHAN	代表理事	(株)脈詩TOWA
"	李 LEE	東 DONG	秀 SOO	代表理事	五東實業(株)

區 分	姓 名	團 體 會社職位	團 體 / 會 社 名
團 員	李 成 揆 LEE SUNG KYU	代表理事	巨林精密
"	李 秀 龍 LEE SOO YONG	代表理事	泰昌鐵鋼(株)
"	河 大 泓 HA DAE HONG	代表理事	韓國NASH-ELMO(有限)
"	權 殷 榮 KWON EUN YOUNG	社 長	東明重工業(株)
"	朴 石 培 PARK SUK BAE	社 長	太陽機電
"	李 炳 玉 LEE BYUNG OK	社 長	新星精密產業
"	鄭 七 受 CHUNG CHIL CHOO	社 長	JIN MYUNG ENERGY
"	鄭 竣 明 CHUNG JUNE MYONG	社 長	日本三星(株)
"	池 泰 燮 JI TAE SUP	社 長	泰寧物產(株)
"	金 定 植 KIM JUNG SHICK	院 長	堤川SEOUL病院
"	李 洙 詰 LEE SOO CHUL	副 社 長	三星物產(株)
"	金 敬 泰 KIM KYUNG TAE	專務理事	泰昌鐵鋼(株)
"	金 富 國 KIM BU GOOK	專務理事	韓國金型工業協同組合
"	朴 禹 建 PARK WOO KEON	專務理事	韓國生產性本部
"	韓 元 碩 HAN WON SEK	專務理事	(社)韓日經濟協會
"	金 庚 助 KIM KYUNG JO	常 務	日本三星(株)
"	金 亨 基 KIM HYUNG KI	常 務	日本三星(株)
"	南 玪 祐 NAM HYUN WOO	常 務	三南石油化學(株)
"	李 栢 儀 LEE BAEG EUY	常 務	(株)三養社

區 分	姓 名			團 體 會社職位	團 體 / 會 社 名
團 員	李 LEE	秀 SOO	永 YOUNG	常 務	日本三星(株)
"	李 LEE	英 YOUNG	鎮 JIN	常 務	(株)三養GENEX
"	申 SHIN	榮 YOUNG	敏 MIN	理 事	(社)韓日經濟協會
"	許 HUH	南 NAM	整 JUNG	理 事	(財)韓日產業技術協力財團
"	金 KIM	都 DO	亨 HYUNG	教 授 客員研究員	啓明大學校 (社)韓國貿易協會
"	柳 RYU	濟 JE	九 GOO	教 授	SEOUL產業大學校
"	程 CHUNG		勳 HOON	教 授	仁川大學校
"	河 HA	炳 BYUNG	基 KI	室 長	產業研究院
"	金 KIM	元 WON	律 YOOL	研究委員	韓國發展戰略研究院
"	金 KIM	基 KI	映 YOUNG	支 社 長	大韓製糖(株)
"	安 AHN	俊 JUN	浩 HO	支 社 長	LG石油化學(株)
"	朴 PARK	魯 NO	鍊 RYON	所 長	中小企業振興公團
"	朴 PARK	良 YANG	燮 SEOP	支 部 長	韓國貿易協會
"	林 LIM	永 YOUNG	鎮 JIN	支 店 長	新韓銀行(株)
"	朴 PARK	鍾 JONG	甲 KAB	TEAM長	大韓商工會議所
"	申 SHIN	京 KYUNG	淑 SOOK	次 長	新韓銀行(株)
"	高 KO	鍾 JONG	燮 SEOB	課 長	中小企業協同組合中央會
"	朴 PARK	勇 YONG	男 NAM	課 長	POSCO
"	劉 YOO	圭 KYU	逸 IL	課 長	(株)曉星

區 分	姓 名	團 體	團 體 / 會 社 名
團 員	丁 鳳 鎬 CHUNG BONG HO	課 長	全國經濟人聯合會
"	崔 秀 慶 CHOI SU KYUNG	課 長	(株)三養社
"	洪 性 一 HONG SUNG IL	課 長	全國經濟人聯合會
"	李 尚 竣 LEE SANG JUN	社 員	韓國貿易協會
"	趙 寧 俊 CHO YOUNG JUN	社 員	大韓商工會議所
Observer	朴 承 武 PARK SEUNG MOO	經濟公使	駐日韓國大使館
"	徐 錫 崇 SEO SEOK SOONG	商 務 官	駐日韓國大使館
"	鄭 運 禎 JEONG WOON JIN	一等書記官	駐日韓國大使館
"	文 炳 哲 MOON BYUNG CHUL	事 務 官	產業資源部
"	南 仁 模 NAM IN MO	主 務 官	大邱廣域市
"	鄭 起 榮 JUNG KI YOUNG	主 務 官	大邱廣域市
事 務 局	金 汝 種 KIM YEO JONG	部 長	(社)韓日經濟協會
"	宋 成 基 SONG SUNG GI	部 長	(社)韓日經濟協會
"	柳 奉 雨 RYU BONG WOO	部 長	(社)韓日經濟協會
"	趙 德 卯 CHO DUCK MYO	次 長	(社)韓日經濟協會
"	張 震 旭 CHANG JIN WOOK	課 長	(社)韓日經濟協會
"	沈 揆 榛 SHIM KYU JIN	課 長	(社)韓日經濟協會
"	劉 崇 勳 YOO SUNG HUN	課 長	(社)韓日經濟協會
"	金 甫 建 KIM BO KEON	社 員	(社)韓日經濟協會
"	李 由 美 LEE YOO MI	社 員	(社)韓日經濟協會

2. 日本側 代表團 名單

(敬称略・順不同)

団 長	瀬 戸 雄 三 SETO YUZO	(社)日韓経済協会 会長 アサヒビール(株) 相談役
副 団 長	渡 里 杉一郎 WATARI SUGIICHIRO	(社)日韓経済協会 副会長 (株)東芝 相談役
副 団 長	亀 井 俊 郎 KAMEI TOSHIO	(社)日韓経済協会 副会長 川崎重工業(株) 特別顧問
副 団 長	鈴 木 政 志 SUZUKI MASASHI	(社)日韓経済協会 副会長 野村證券(株) 常任顧問
名誉会長	藤 村 正 哉 FUJIMURA MASAYA	(社)日韓経済協会 名誉会長 三菱マテリアル(株) 相談役
顧 問	奥 田 碩 OKUDA HIROSHI	(社)日韓経済協会 顧問 (社)日本経済団体連合会 会長
顧 問	渡 辺 修 WATANABE OSAMU	日本貿易振興機構 理事長
来 賓	神 田 真 秋 KANDA MASAOKI	愛知県知事
来 賓	因 田 義 男 INDEN YOSHIO	名古屋市助役

特別参加	小 倉 和 夫 OGURA KAZUO	国際交流基金 理事長
特別参加	坂 本 春 生 SAKAMOTO HARUMI	(財) 2005年日本国際博覧会協会 副会長
特別参加	田 勢 修 也 TASE SHUYA	日韓中小企業委員会委員長 全国中小企業団体中央会 専務理事
特別参加	山 本 栄 二 YAMAMOTO EIJI	在大韓民国日本大使館 公使
団 員 分科会コーディネーター	麻 生 泰 ASO YUTAKA	日韓中堅経済人交流促進ミッション 団長 麻生セメント(株) 取締役社長
団 員 分科会コーディネーター	安 武 史 郎 YASUTAKE SHIRO	日韓産業貿易会議チェアマン代行 双日(株) 特別顧問
団 員 分科会発表者	篠 原 徹 SHINOHARA TORU	日本商工会議所 常務理事
団 員 分科会発表者	上 田 勝 弘 UEDA KATSUHIRO	大垣精工(株) 代表取締役社長 (社)日本金型工業会 会長
団 員	岩 崎 次 弥 IWASAKI TSUGIYA	アサヒビール(株) 国際事業本部長
団 員	南 雲 智 子 NAGUMO TOMOKO	アサヒビール(株) 秘書室主任
団 員	尹 恵 重 YOON HYE JOONG	アサヒビール(株) 経営戦略部主任
団 員	河 野 一 馬 KONO KAZUMA	アサヒ飲料(株) 企画本部経営戦略部プロデューサー
団 員	橋 本 正 敏 HASHIMOTO MASATOSHI	(株)アサヒカーゴサービス名古屋 取締役社長
団 員	金 谷 一 男 KANAYA KAZUO	石川島播磨重工業(株) 取締役常務執行役員
団 員	古 川 和 雄 FURUKAWA KAZUO	石川島播磨重工業(株) 海外営業戦略部渉外グループ部長
団 員	清 水 孝 郎 SHIMIZU TAKAO	石川島播磨重工業(株) ソウル事務所長
団 員	松 本 明 久 MATSUMOTO AKIHISA	伊藤忠商事(株) 執行役員 金属・エネルギーカンパニーエグゼクティブ・バイスプレジデント兼エネルギー部門長

団員	三木 邦夫 MIKI KUNIO	韓国伊藤忠㈱ 社長
団員	清水 明生 SHIMIZU AKIO	韓国伊藤忠㈱ 副社長
団員	後藤 次幹 GOTO TSUGIMOTO	伊藤忠マネジメントコンサルティング㈱ 海外市場グループアジア担当部長
団員	高橋 節夫 TAKAHASHI SETSUO	伊藤忠丸紅鉄鋼㈱ 名古屋支社長
団員	小林 寛之 KOBAYASHI HIROYUKI	川崎重工業㈱ 営業推進部 参与
団員	西村 和芳 NISHIMURA KAZUYOSHI	(社)関西経済連合会 国際交流本部国際グループ参事
団員	平井 彰 HIRAI AKIRA	(社)九州・山口経済連合会 企画広報部長 兼 国際部長
団員	深堀 慶憲 FUKAHORI YOSHINORI	九州電力㈱ 情報通信事業部部長
団員	石原 進 ISHIHARA SUSUMU	九州旅客鉄道㈱ 代表取締役社長
団員	小野田 照義 ONODA TERUYOSHI	九州旅客鉄道㈱ 経営企画部企画国際室長
団員	笠原 剛 KASAHARA TAKESHI	九州旅客鉄道㈱ 経営企画部主席
団員	青木 定雄 AOKI SADAÔ	近畿産業信用組合 会長
団員	宮野 徳彦 MIYANO NORIHIKO	㈱コッシー 代表取締役
団員	藤田 徹 FUJITA TORU	㈱住友商事総合研究所 情報調査部アジア担当
団員	鮫島 章男 SAMESHIMA FUMIO	太平洋セメント㈱ 取締役社長
団員	徳植 桂治 TOKUUE KEIJI	太平洋セメント㈱ 取締役 常務執行役 海外カンパニープレジデント
団員	舟久保 陽一 FUNAKUBO YUICHI	太平洋セメント㈱ 秘書部長

団 員	木 正 敏 YORIKI MASATOSHI	月島機械(株) 社友
団 員	田 原 龍 二 TAHARA RYUJI	月島機械(株) 代表取締役社長
団 員	森 島 進 MORISHIMA SUSUMU	月島機械(株) 執行役員
団 員	松 田 毅 MATSUDA TSUYOSHI	(株)東京三菱銀行 韓国総支配人兼ソウル支店長
団 員	金 容 泰 KIM YOUNG-TAE	(株)東京三菱銀行 ソウル支店顧問
団 員	山 田 保 博 YAMADA YASUHIRO	(株)東急ホテルマネジメント 常務取締役マーケティング部長
団 員	門 野 真一郎 KADONO SHINICHIRO	(株)東芝 行政・産業部 参事
団 員	飯 島 英 胤 IIJIMA HIDETANE	東レ(株) 特別顧問
団 員	沼 野 隆 一 NUMANO RYUICHI	東レ(株) 国際部アジア・極東担当部長
団 員	荒 井 正 行 ARAI MASAYUKI	トヨタ自動車(株) アジア部部長
団 員	千吉良 泰 三 CHIGIRA TAIZO	トヨタ自動車(株) アジア部主査
団 員	成 田 洋 助 NARITA YOSUKE	(財)日韓産業技術協力財団 専務理事・事務局長
団 員	山 崎 弘 YAMAZAKI HIROSHI	(財)日韓産業技術協力財団 常務理事・管理部長
団 員	内 田 富 夫 UCHIDA TOMIO	(財)日韓文化交流基金 理事長
団 員	西 塚 英 和 NISHIZUKA HIDEKAZU	(株)日本航空システム 代表取締役副社長
団 員	遠 藤 一 郎 ENDO ICHIRO	日鉱金属(株) 顧問 東アジア事業推進室長
団 員	小 原 敏 人 KOHARA TOSHIHITO	日本ガイシ(株) 相談役

団 員	田 中 康 文 TANAKA YASUFUMI	(社) 日本経済団体連合会 国際本部
団 員	服 部 聖 子 HATTORI SEIKO	(社) 日本経済団体連合会 国際本部
団 員	岩 間 信 弥 IWAMA SHINYA	日本商工会議所 流通・地域振興部調査役
団 員	齋 藤 彰 一 SAITO SHOICHI	(株) 日本能率協会コンサルティング 常務取締役
団 員	横 田 正 伸 YOKOTA MASANAKA	(株) 日本能率協会コンサルティング 取締役 シニアコンサルタント
団 員	秋 本 武 則 AKIMOTO TAKENORI	(株) 日本能率協会コンサルティング 取締役
団 員	佐々木 俊 二 SASAKI SHUNJI	(社) 日本貿易会 国際・調査グループ部長
団 員	飯 塚 和 憲 IIZUKA KAZUNORI	日本貿易振興機構 理事
団 員	久 富 英 司 HISATOMI EIJI	日本貿易振興機構 総務部秘書室長代理
団 員	百 本 和 弘 MOMOMOTO KAZUHIRO	日本貿易振興機構 海外調査部中国北アジア課職員
団 員	中 村 富 安 NAKAMURA TOMIYASU	日本貿易振興機構 ソウルセンター 所長
団 員	泊 三 夫 TOMARI MITSUO	(株) 博報堂 執行役員
団 員	高 杉 暢 也 TAKASUGI NOBUYA	韓国富士ゼロックス(株) 代表理事会長 Seoul Japan Club 理事長
団 員	清 水 紘一郎 SHIMIZU KOICHIRO	(株) ホテルオークラ 取締役
団 員	小 林 啓 郎 KOBAYASHI KEIO	(株) ホテルオークラ東京 営業二部国際セールス課韓国担当課長
団 員	榊 原 俊 資 SAKAKIBARA SHUNSUKE	韓国丸紅(株) 社長
団 員	藤 森 康 雄 FUJIMORI YASUO	三井物産(株) 業務統括部海外室長

団 員	橋 本 芳 博 HASHIMOTO YOSHIHIRO	韓国三井物産(株) 社長
団 員	桜 井 健 司 SAKURAI TAKESHI	三菱商事(株) 顧問
団 員	矢 野 雅 英 YANO MASAHIDE	三菱商事(株) 執行役員 繊維本部長
団 員	金 森 廣 KANAMORI HIROSHI	韓国三菱商事会社 社長
団 員	森 原 康 夫 MORIHARA YASUO	韓国三菱商事会社 経営支援本部課長代理
団 員	北 岡 隆 KITAOKA TAKASHI	三菱電機(株) 相談役
団 員	渡 邊 到 WATANABE ITARU	三菱電機(株) 国際部アジアグループマネージャー
団 員	小 西 憲二郎 KONISHI KENJIRO	三菱マテリアル(株) 名古屋支店支店長
団 員	井 藤 希 ITO NOZOMU	宇部三菱セメント(株) 名古屋支店支店長
団 員	小田切 武 弘 ODAGIRI TAKEHIRO	UCC上島珈琲(株) 海外事業部担当課長
団 員	坂 本 和 一 SAKAMOTO KAZUICHI	学校法人立命館 副総長
団 員	木 野 明 KINO AKIRA	学校法人立命館 東京オフィス所長
団 員	西 田 宗 旦 NISHIDA MUNEAKI	立命館アジア太平洋大学 副学長
団 員	西 村 和 義 NISHIMURA KAZUYOSHI	(社)日韓経済協会 参与
団 員	御 巫 清 美 MIKANAGI KIYOYOSHI	(社)日韓経済協会 専務理事
団 員	下 出 道 雄 SHIMODE MICHIO	(社)日韓経済協会 常務理事・調査部長
団 員	平 木 健二郎 HIRAKI KENJIRO	(社)日韓経済協会 専務理事付

アドバイザー	堀 籠 登喜雄 HORIGOME TOKIO	豊田合成㈱ 取締役会長
事務局	保 坂 昭 寿 HOSAKA AKITOSHI	(社)日韓経済協会 調査部主任調査役
事務局	早 川 徳 光 HAYAKAWA NORIMITSU	(社)日韓経済協会 業務部部长
事務局	小 林 直 人 KOBAYASHI NAOHITO	(社)日韓経済協会 業務部部长
事務局	古 川 哲 也 FURUKAWA TETSUYA	(社)日韓経済協会 総務部部长
事務局	伊 藤 美千代 ITO MICHIO	(社)日韓経済協会 総務部員

V. 開 會 式

1. 團長人事



瀬戸 雄三 (SETO Yuzo)

日本側 代表團 團長

안녕하십니까? 방금 소개받은 일한경제협회 회장을 맡고 있는 세토입니다. 일본측을 대표하여 여러분께 인사말씀을 올리겠습니다.

존경하는 김상하 한일경제협회 회장님, 그리고 강신호 전국경제인연합회 회장님을 비롯한 한국 경제계 지도자 여러분! 나고야에 오신 것을 환영드립니다. 그리고 부임하신지 얼마 되지 않으신 라종일 주일대한민국특명전권대사님께서서는 바쁘신 가운데 임석해 주신 점에 대해서 감사를 드리겠습니다. 이 자리에 계신 모든 분들께 심심한 환영과 감사의 뜻을 표하는 바입니다.

또한 금번 경제인회의 개최에 즈음하여 여러모로 힘써주신 아이치현의 칸다 지사님, 나고야시의 마쓰바라 시장님, 그리고 인덴 부시장님, 그리고 본 아이치현 나고야시의 경제계 여러분께도 진심으로 감사의 뜻을 표하고자 합니다. 여러분 덕분에 많은 경제인들이 참석하게 되었습니다. 감사합니다.

작년에는 대구에서 제35회 한일경제인회의가 개최되었습니다. 그 후 벌써 1년이 지났습니다. 작년 회의에서는 기조연설을 해 주셨던 박용성 대한상공회의소 회장님, 그리고 오쿠다 히로시 일본경단련 회장님 두 분으로부터 각각 자국경제의 문제점에 관하여 매우 솔직한 반성과 명확한 향후 지침이 제시된 바 있습니다. 두 분의 기조연설은 참석자 전원에게 커다란 감명을 주었습니다. 특히 한일 양국 미래를 위하여 서로간에 배울 점이 대단히 많다고 하신 박용성 회장님의 말씀은 저희 관계자들에게는 커다란 용기를 불어 넣어주는 것이었습니다.

세계정세가 크게 격변되고 있는 가운데 한일 양국은 많은 어려움에 직면하고 있습니다. 그러나 반면에 밝은 조짐도 보이기 시작하고 있습니다. 지금이야말로 한일 양국은 가깝고도 가까운 나라로써 함께 번영하고 이를 위한 솔직하고 전향적인 교류의 장을 마련해야만 합니다. 당면 과제라고 볼 수 있는 양국간 FTA 추진에 관해서도 미시적, 거시적 양 측면에서 대국적인 판단이 요구되고 있습니

다. 양국이 서로로부터 배우는 자세, 배움의 정신을 구현화 시킬 수 있는 커다란 시금석이 아닐까 싶습니다.

일한·한일경제협회는 FTA를 추진하기 위하여 양국의 산업기술협력재단과 함께 작년부터 양국 중소기업을 위한 상호보완사업들을 추진하고 있습니다. 작년 10월에는 서울에서 한일 양국의 중소기업 약 60개사가 모여서 제1차 상담회가 개최된 바 있습니다. 올해는 5월에 도쿄에서 제2차 중소기업상담회가 개최될 예정입니다. 그리고 일한경제협회와 한일경제협회는 한일간의 우호는 젊은 사람들의 풀뿌리 교류에서 시작된다고 하는 합의를 하였고 그런 점에서 올해 1월에 양국 고등학생 110명이 참가한 경제캠프를 도쿄에서 개최하였습니다. 단기간의 프로그램이긴 했습니다만, 언어의 장벽을 넘은 그야말로 감동적인 교류가 실현되었습니다. 본 고등학생들의 경제캠프는 앞으로 그 내용을 더욱 알차게 만들어가면서 1년에 두 번 정도씩 개최를 할 생각입니다. 중소기업과 고등학생, 그러니까 서로 스테이지가 다른 두 가지 교류를 통해서 느낀 점, 그것은 한일 양국이 아직은 너무나도 상대방을 모르고 있다는 점이었습니다. 양국의 미래지향적인 관계구축, 이것은 말이라던가 캐치프레이즈라는 단계는 졸업을 했습니다. 그리고 앞으로 구체적인 행동으로 옮겨 나가야 한다고 생각합니다. 이것이 제가 느낀 실감이었습니다.

오늘과 내일 양일간에 매우 짧은 기간이긴 합니다만, 여러 가지 측면에서 새로운 교류의 싹이 움터서 두 나라 모두에게 많은 결실을 맺어주는 뜻 깊은 회의가 되기를 기원 드리면서 저의 인사말로 대신하겠습니다. 감사합니다.



金 相 廈
韓國側 代表團 團長

여러분 안녕하세요? 방금 紹介받은 韓日經濟協會 會長 金相廈 입니다. 오늘은 世界的인 企業과 歷史的으로도 有名한 人物들을 많이 輩出한 이곳 名古屋市에서 第36回 韓日・日韓經濟人會議가 開催케 된데 대해 무척 기쁘게 생각하며, 韓國側을 代表하여 人事말씀을 드리게 된 것을 큰 榮光으로 생각합니다.

먼저, 이번 會議에 參席하여 주신 瀬戸 雄三(세토 유조) 團長님을 비롯한 韓日兩國 代表團 여러분과, 또한 여러모로 바쁘신 가운데도 불구하고 이 자리에 枉臨하시어 자리를 빛내주신 神田 眞秋(칸다 마사아키) 愛知縣知事님, 因田 義男(인덴

요시오) 名古屋市 副市長님, 그리고 羅鍾一 駐日大韓民國特命全權大使님을 비롯한
來賓 여러분께도 甚深한 感謝의 말씀을 표하는 바입니다.

韓日 兩國 委員 여러분!

내년은 韓日國交正常化 40周年을 맞는 아주 뜻깊은 해입니다. 그 동안 우리
韓日經濟人間의 끈끈한 紐帶協力を 바탕으로 1965년이래 兩國間의 經濟協力이
크게 擴大·發展되어 온 것은 先代 經濟人들을 비롯하여 이 자리에 계신 兩國 委
員님들의 勞苦가 있었기에 가능하였다고 생각하며 깊은 感謝를 드리는 바입니다.

올 한해에도 우리 韓日 兩國 經濟人들이 해야 할 일들은 너무나도 많습니다.
2005年을 目標로 韓日FTA 締結을 위한 政府間 協商이 進行되고 있으며, 김포↔
하네다(羽田)간 정기 차타편의 開港으로 兩國 首都圈의 接近性도 상당히 便利해
졌습니다. 또한 今年부터는 日本의 大衆文化도 全面的으로 開放되어 日本의 映
畫를 韓國 國內의 安방극장에서도 볼 수 있게 되는 등 兩國이 더욱 가까워지는
契機가 마련되었습니다.

최근 日本은 長期不況에서 벗어나 日本企業들의 탄탄한 潛在力의 밑바탕인 製
造業 部門에서의 技術力을 바탕으로 準備된 未來를 맞이하고 있습니다. 國際競
爭力에서 뒤 처지지 않게 企業 스스로 構造改革에 나선 것은 韓國에게도 좋은 事
例가 될 것으로 믿어 疑心치 않습니다.

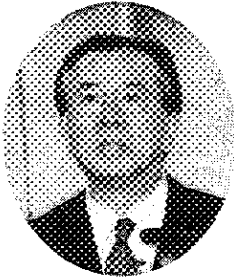
昨年에는 韓日 企業間 競爭과 協力이란 테마로 활발한 論議가 있었습니다만,
産業은 競爭을 통해서 강해지는 것이며 서로 競爭하면서 適應力을 기르고 힘을
길러야 成長해 나갈 수 있는 것이라고 생각합니다.

글로벌 競爭時代에서 落伍하지 않기 위해서는 世界的인 FTA의 흐름속에서 韓
國과 日本이 서로의 市場을 열고 貿易과 經濟交流의 活性化를 圖謀해 나가야 할
것이며, 이를 위한 兩國 經濟界의 努力이 더욱 절실한 實情입니다. 그런 次元에
서 올 한해에는 兩國 企業들간의 成功的인 비즈니스 協力모델을 만들어 나가는데
最善을 다하고자 합니다.

이번 會議에서는 「韓日 兩國의 産業空洞化 對策과 中小企業 活性化 對策」이
란 테마로 兩國間 協力方案을 協議하는 案件이 上程되어 있습니다. 韓日 兩國이
함께 共存共榮의 Win-Win關係를 형성해 나가기 위해 새로운 協力方案을 導出해
낼 수 있도록, 兩國 代表團 여러분께 眞摯하고도 活潑한 討議를 부탁드립니다.

끝으로 이번 나고야 會議를 통해 韓國과 나고야 地域과의 經濟交流가 擴大되는 契機가 되기를 바라며, 韓日間의 經濟協力이 더욱 增進될 수 있기를 祈願하면서 저의 人事말씀을 마치고자 합니다. 대단히 感謝합니다.

2. 來賓祝辭・顧問人事



神田 眞秋 (KANDA Masaaki)

愛知縣 知事

여러분 안녕하십니까? 방금 소개받은 아이치현 지사를 맡고 있는 칸다입니다. 제36회 일한·한일경제인회의의 성대한 개최식에 초대해 주셔서 감사합니다. 개최지 지사로써 삼가 여러분께 인사말씀 올리겠습니다.

한국과 일본을 대표하는 경제인 여러분들, 우리 아이치현을 방문해 주신 점에 대해서 대단히 감사합니다. 영광으로 생각하고 여러분을 환영하고자 합니다. 아이치현의 현민 710만명을 대표하여 정성껏 여러분을 모시도록 하겠습니다. 2002년 월드컵 한일 공동개최 이후 양국간의 친근감은 더욱 깊어지고 있습니다. 저 자신 2001년에 「세계도자기엑스포 2001 대한민국」을 시찰하기 위하여 한국을 방문한 적이 있습니다. 그 후 수 차례에 걸쳐 한국을 다녀왔습니다. 한국에 대해서 상당히 친근감을 느끼고 있습니다. 그런 면에서 작금 한국과 일본의 교류가 심화되고 있음을 진심으로 기쁘게 생각하고 있습니다.

이런 가운데 양국 경제분야 교류를 이끌어 가신다고 볼 수 있는 대표적인 회의인 경제인회의가 우리 아이치현에서 개최되고 있습니다. 우리 아이치현으로서는 이를 대단한 영광으로 생각하고 기쁘게 생각합니다. 특히 이번 회의에서는 양국의 산업공동화 대책이라든지 중소기업 활성화 대책에 관하여 논의가 된다고 들었습니다. 세계 유수의 제조업의 거점 지역인 우리 아이치현도 경제의 글로벌라이제이션의 조류 속에서 산업공동화가 우려되고 있습니다. 또 산업의 활성화가 커다란 과제로 대두되고 있습니다. 그런 만큼 우리 아이치현 나고야에서 한일 양국의 대표적인 경제인들께서 이와 같은 문제에 대해서 논의한다는 것은 대단히 의의가 있고 시의적절한 일이라고 생각합니다.

동아시아지역의 눈부신 경제발전, 이는 세계의 이목을 집중시키고 있습니다. 그런 가운데 일본경제는 최근 들어 간신히 밝은 조짐이 나타나고 있고 회복세가

두드러지고 있습니다. 엔화 강세라든가 이라크정세라든가 불안정한 요소도 없지 않습디만, 글로벌한 경제 여건 속에서 작금의 좋은 징조를 보다 확실한 것으로 다듬어 나가야 할 것입니다. 이를 위해서라도 외국기업들과 일본의 기업들이 교류와 신뢰를 두텁게 하고 또 다른 한편에서는 서로 자극을 하면서 함께 활성화되어 나간다고 하는 것이 대단히 중요하다고 생각합니다.

저희 아이치현은 내년 2월 17일에 중부국제공항이 오픈됩니다. 그리고 내년 3월 25일부터는 우리 아이치현에서 엑스포가 개최될 예정입니다. 이 두 가지 대규모 프로젝트를 계획하고 있습니다만, 이 프로젝트를 계기로 해서 전세계로부터 사람과 기업과 정보를 유치할 수 있도록 국제교류 대도시권 형성을 지향하고 있습니다. 다시 말씀드리면 우리 아이치현을 국제적인 비즈니스 거점으로 발전시키고자 한다는 것입니다. 여러분과 같이 세계를 무대로 활약하고 계신 경제인께서도 우리 아이치현에서 더 활동하기가 쉽고 더 많은 친근감을 느낄 수 있는 그런 지역을 조성해 나가고자 합니다.

금번 일한·한일경제인회의를 통해서 이 자리에 참석하신 여러분들은 우리 아이치현의 현황이라든가 아이치현이 힘쓰고 있는 여러 시책에 이해를 깊이 해 주실 수 있는 기회가 되기를 바라고 있습니다. 마지막으로 본 경제인회의가 많은 결실을 거두고 양국의 경제발전으로 확실하게 이어지기를 기원 드리면서 짧지만 저의 인사말로 대신하겠습니다. 감사합니다.



羅 鍾 一
駐日大韓民國特命全權大使

여러분 안녕하십니까? 주일한국대사 라종일입니다. 먼저 이 자리를 빌어 36회째를 맞는 양국 경제인회의의 성공적 개최를 축하드리면서 나고야에 초청되어 몇 말씀 드리게 된 것을 진심으로 기쁘게 생각합니다.

특히 오늘의 회의 개최를 위하여 힘써주신 존경하는 세토 유조 일한경제협회 회장님과 김상하 한일경제협회 회장님께 그간의 노고를 치하드립니다. 또한 바쁘신 시간 중에 자리를 빛내주신 칸다 마사야끼 아이치현 지사님, 이곳 나고야시의 인텐 요시오 부시장님께도 깊은 감사를 드립니다.

한달 전에 부임한 저로서는 오늘의 회의 참석이 일본에서의 첫 번째 중요한 지방출장 행사입니다. 그러한 점에서 나고야는 저에게 결코 잊지 못할 도시이며

또 내년 이맘때에는 오랜 준비 끝에 만국박람회가 이곳 아이치현에서 개최될 예정이기에 적어도 몇 번은 더 이곳을 방문하게 될 것 같습니다. 물론 이곳 나가는 일본이 세계에서 자랑하는 토요타공장을 비롯한 자동차 및 부품산업의 본산이라는 것을 제가 다시 강조할 필요가 없습니다.

오늘 양국의 경제계를 대표하는 원로들을 모신 자리인 만큼 최근 한일간의 전반적인 협력관계에 관하여 간단히 몇 말씀 드리고자 합니다. 한국과 일본 두 나라는 오랜 역사 속에서 교류를 진전하여 왔습니다만, 지난 '98년 한일 파트너십 공동선언으로 미래지향적 관계를 구축하기 위한 토대가 만들어지고 또한 2002년 월드컵 공동개최를 계기로 양국간의 정치·경제·문화·관광·스포츠 등 모든 분야에 걸쳐서 활발한 교류를 하고 있습니다. 이 즈음 장안의 화제가 되고 있는 한국 드라마 겨울연가나 혹은 한국 국적 가수 보아양도 모두 다 그간 양국이 꾸준히 쌓아온 정서의 공감대 위에서 가능한 일이라고 생각되기에 마음 든든하기 그지없고 이러한 일이 또한 일본에 국한된 일만은 아니란 점을 말씀드리고 싶습니다.

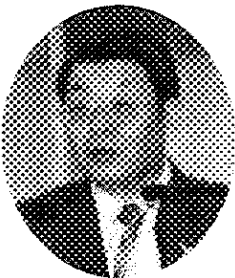
일본의 우수한 영화들을 한국의 수많은 청중들이 관람하고 있고 또 가부키나 스모와도 같은 일본의 전통들에 한국은 보다 가까워지고 있습니다. 작년에 제4차 일본문화 개방의 조치가 취해진 이후 한일간의 교류는 어떠한 장애도 없이 더 더욱 발전되고 있습니다. 어제 한국에서 오신 경제계의 원로들께서도 김포공항에서 출발하여 꼭 두시간 후에 하네다공항에 내리셨듯이 이제는 시간적으로도 거의 국내여행과 다름없는 시대에 돌입하였습니다. 일부 지역에서는 빠른 고속패리 덕택에 같은 날 양국 사이를 방문해서 점심식사를 하고 돌아온다는 얘기도 들었습니다. 이러한 좋은 현상들이야말로 양국 정상이 합의한 바 있는 평화와 번영의 북동아시아로 가는 공존공영의 길이라 여겨집니다.

특히 내년은 한일 양국이 국교정상화를 한지 만 40주년이 되는 의미 깊은 해이기도 합니다. 많은 축하행사가 예정되어 있고 오늘 참석해주신 여러분들께서도 그 준비를 위해 모두 중책을 맡아 애쓰시고 있음을 저도 잘 알고 있습니다. 생각해보면 그간 양국의 사정에는 참으로 많은 변화가 있었습니다. 일본은 상당기간의 불황의 그늘에서 벗어나 힘차게 전진하고 있으며, 한일간의 경제협력의 공고함과 밀접함에 비추어볼 때 이는 크게 기뻐할 일이라고 하겠습니다. 또 여러분들께서도 익히 잘 아시는 바와 같이 한국에도 최근 들어 혁신적인 변화의 물결이 일고 있습니다. 특히 지난주 총선거에서 개혁의 기치를 앞세운 여당이 국회 의석의 과반수 이상을 점하게 됨으로써 보다 안정적인 국정운영이 가능하게 되었습니다.

일본 사회가 보다 예측 가능한 세계처럼 보이는 일면 우리 한국은 굳이 비유를 들자면 마치 자전거를 타는 것과 같이 안정성을 유지하는 속성이 있다고나 할 수 있겠습니다. 자칫 균형을 잃지 않을까 우려되면서도 계속 움직이면서 전진하는 관성이 우리 한국의 특징인 것 같습니다. 물론 한일 두 나라 모두 어떤 상황에서도 경계를 튼튼히 받쳐주고 계시는 여러분들이 계실 때에만 가능한 그러한 일입니다.

한일 양국의 경제협력의 정점에서 양국간 자유무역협정의 체결을 위한 정부간 협상이 현재 진행되고 있습니다. 예정대로 내년말까지 협상이 완료되어 한일간의 FTA가 실현될 경우 인구 1억7천만, 세계 총GDP의 17%를 점하는 단일시장이 형성되어 한일 양국은 새로운 경제협력태세로 탄생하게 될 것입니다. FTA의 실현은 단순한 교역과 투자의 증대 차원을 넘어 양국간의 모든 협력관계를 한차원 높이는 중대한 계기가 될 것이라고 믿어 의심치 않습니다. 그러나 이 자리에 참석하고 계시는 양국 경제계 원로들의 적극적인 지원과 협력 없이는 정부간의 FTA 협상도 원만하게 진행되기가 어렵다고 생각합니다.

그런 의미에서도 금번 경제인회의를 통해 양국 경제계를 대표하는 여러분들이 상호 관심사항에 대해 솔직하게 의견을 교환함으로써 앞으로의 FTA 협상에도 귀중한 공헌을 하는 계기가 될 수 있다고 생각합니다. 동시에 이번 회의를 통해 양국의 공동 관심사항인 산업공동화 대책과 중소기업 활성화 방안에 대해서도 훌륭한 제언과 토론들이 있기를 기대해마지 않습니다. 마지막으로 제36회 한일경제인회의에 참석하신 여러분의 행복과 건승을 기원 드립니다. 감사합니다.



因田 義男 (INDEN Yoshio)
名古屋市助役(副市長)

여러분 안녕하십니까? 나고야에 잘 오셨습니다. 나고야 시민 219만명을 대표하여 진심으로 여러분을 환영해마지 않습니다. 소개받은 나고야시 부시장인 인덴이라고 합니다. 원래는 마쓰바라 시장님께서 나오셔서 인사를 드려야 되겠습니다만, 다른 공무 때문에 오늘 참석을 못했습니다. 시장님께서 맡기신 축사를 제가 대독하겠습니다.

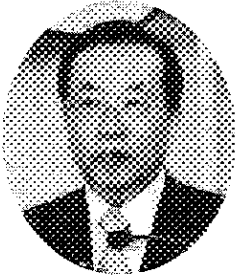
오늘은 한일 양국을 대표하는 경제인 여러분이 참석하신 가운데 이곳 나고야에서 제36회 일한·한일경제인회의가 성대히 개최하게 된 것을 진심으로 축하드

됩니다. 또한 이 자리에 모이신 여러분들 나고야시에 잘 오셨습니다. 진심으로 환영드립니다. 일본과 한국은 지리적으로도 아주 가깝고 오래 전부터 교류를 거듭하면서 문화적인 공통점을 많이 갖고 있습니다. 또한 오늘날에 있어서는 한일 양국의 양호한 경제협력관계는 양국뿐만 아니라 동아시아경제의 안정과 발전을 위해서 없어서는 안되는 것이 되고 있습니다. 이렇게 중요한 관계를 갖는 일본과 한국에서 개최되고 있는 일한·한일경제인회의는 한일 양국의 경제협력체제 구축뿐만 아니라 양국의 상호이해를 위해서도 커다란 공헌을 하고 있는 것으로 알고 있습니다.

이번 회의의 개최지가 된 이곳 나고야는 나고야성 축성을 시작으로 하는 400년 가까운 문화와 역사를 갖고 있고 메이지시대 이후에는 일본을 대표하는 산업도시의 하나로써 발전을 거듭하여 왔습니다. 그러한 역사를 이어받아 현재에 있어서는 나고야를 중심으로 해서 자동차산업이나 파인세라믹스 등 제조업이 많이 발전되었고 세계적인 제조업의 커다란 거점이 되고 있는 것입니다. 나고야시에 있어서는 이러한 기존의 산업고도화에 더하여 정보기술, 바이오, 환경관련산업 등 첨단적인 기술산업에 진흥, 나아가서는 산학 그리고 행정이 연휴된 차세대산업의 창조를 지향하여 첨단기술분야의 연구시설이나 연구개발형 기업의 집적을 도모하는 나고야 사이언스파크사업을 추진하고 있습니다. 오늘 참석하신 여러분께서도 이 사업에 관심을 갖고시고 나고야 진출을 아무쪼록 검토해 주시도록 이 자리를 빌어서 부탁드립니다.

그런데 이 지역에 있어서는 현재 중부국제공항의 개항, 내년 3월 15일부터 시작되는 2005 일본국제박람회 사랑·지구박람회의 개최라는 커다란 두 가지 프로젝트를 앞두고 있습니다. 중부국제공항에서는 서울로 가는 정기편도 취항될 예정이며 한국과 이 지역과의 관계가 보다 견고한 것이 될 것으로 기대되고 있습니다. 또한 재작년에 개최된 2002 월드컵의 공동개최, 그리고 최근 일본에서 커다란 화제가 되고 있는 한국의 드라마 겨울연가의 방영을 계기로 해서 일본에 있어서 한국이 아주 친근한 존재가 되고 있습니다. 앞으로는 경제분야에 있어서의 관계도 보다 긴밀한 것이 되고 양국의 산업계가 서로 절차탁마하면서 발전되어 가기를 기대하는 바입니다.

마지막으로 이러한 상황에서 개최되는 본 회의로 한일 양국의 경제인 여러분의 교류가 더욱 더 심화되고 일본과 한국의 경제협력 관계가 더욱 더 진전되기를 기원하면서 인사로 가름하고자 합니다. 2004년 4월 22일 나고야시장 마쓰바라 다케히사... 대독하였습니다. 감사합니다.



金 在 哲
韓國貿易協會 會長

존경하는 세토 유조(瀬戸 雄三) 회장님, 金相廈 회장님, 羅鍾一 駐日대한민국 특명전권 대사님, 간다 마사아키(神田 眞秋) 아이치현 지사님, 인덴 요시오(因田 義男) 나고야 시 부시장님, 와타나베 오사무(渡辺 修) 일본무역진흥기구 이사장님, 그리고 양국 경제인 여러분 ! 본인은 오늘 한일 양국 경제인들의 뜻 깊은 만남의 장인 한일·일한 경제인회의에서 인사말씀을 올리게 된 것을 매우 기쁘게 생각합니다.

한국과 일본은 월드컵 공동 개최와 한국의 일본 문화 개방 등을 계기로 경제·사회·문화 등 각 분야에서 교류와 이해의 폭을 크게 넓혀 왔으며, 21세기 東北亞時代를 실현하기 위하여 그 어느 때보다 돈독한 우호 협력 관계를 다져 나가고 있습니다.

한일 양국간의 교역규모는 지난해 사상 처음으로 500억 달러를 넘어섰고, 여기에 한국과 중국간, 그리고 일본과 중국간 교역을 포함하면, 동북아 3국간의 교역 규모는 2,200억 달러에 달하여 동북아 국가간 상호 교역의 중요성과 의존도가 갈수록 높아지고 있음을 실감할 수 있습니다.

특히 그간 민간차원에서 공동연구와 논의가 이루어져온 한일간 FTA 추진이 지난해 말부터는 정부간 교섭으로 발전하면서 동북아시대 건설을 위한 주춧돌이 놓여지고 있습니다. 한국과 일본간 FTA가 체결되면 전세계 GDP의 17%, 인구 1억 7천 만의 단일시장이 형성되면서 한일 양국은 동북아시아는 물론 세계경제의 중심축으로 도약하게 될 것입니다.

양국 경제인 여러분!

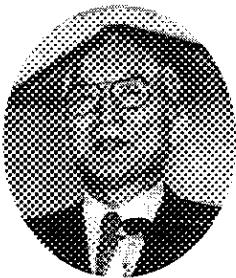
한일 양국이 FTA 체결을 통하여 진정한 동반자로 거듭나기 위해서는 갈수록 심화되고 있는 양국간의 구조적인 무역불균형 개선 등을 포함한 실질적인 협력방안을 강구해 나가야 할 것입니다. 이에 따라 양국간 FTA 추진은 관세철폐를 통한 상품 교역 확대의 차원을 넘어서 비관세장벽 해소, 투자 및 서비스 교역 확대, 조달시장 개방, 기술 및 인적 교류 확대 등을 포함한 포괄적이고 장기적인 협력체제를 도출하는데 초점이 맞추어져야 할 것으로 생각합니다.

이를 위해 양국의 경제인들은 한일FTA 추진을 적극 뒷받침하는 동시에 21세기의 成長動力으로 주목받고 있는 IT 분야를 비롯한, 환경, 생명공학 등 미래산업분야에서의 협력을 더욱 강화해 나가야 할 것입니다. 특히 이 분야의 우수한 인재들이 양국을 자유롭게 왕래하면서 근무할 수 있는 환경을 조성하는 등 구체적인 협력방안을 모색할 필요가 있다고 생각합니다.

이러한 점에서 한일·일한경제인회의는 대표적인 양국간 경제협력기구이자 '東北亞時代'의 문을 여는 '침병'으로서 앞으로도 그 역할을 충실히 수행해 나가야 할 것입니다.

아무쪼록 이번 36회 한일·일한경제인회의가 양국간 경제협력 및 우호증진을 위한 건설적인 방안을 도출하는 자리가 되기를 바라며, 한일·일한경제인회의의 무궁한 발전과 양국 경제인 여러분의 건승을 기원합니다.

감사합니다.



渡辺 修 (WATANABE Osamu)

日本貿易振興機構 理事長

방금 소개받은 JETRO의 와타나베입니다. 인사를 드릴 수 있는 기회를 주신 점에 대해서 영광으로 생각합니다. 먼저 제36회 일한·한일경제인회의가 이렇듯 성대하게 개최되고 있음에 대하여 진심으로 경하 말씀을 드립니다. 제가 일일이 성함을 호명하지는 않겠습니다만, 관계자 여러분들의 노고에 대해서 심심한 경의를 표하고자 합니다. 또 한국에서 오신 여러분들께는 진심으로 환영의 뜻을 표하는 바입니다.

작년에 대구에서 개최되었던 경제인회의에서 저는 한국기업은 일본시장에 대해 수출과 투자, 기술제휴 등 다각적이고 다면적인 접근을 해야 한다, 이를 위해 JETRO는 최대한의 지원을 아끼지 않겠다는 말씀을 드렸습니다. 그럼 작년 회의 이후 그간 1년 동안의 진전사항에 대해서 보고를 드리겠습니다.

저희 JETRO는 한일경제협회가 파견하는 한국기업 수출상담회에 오랫동안 협력을 해왔습니다. 작년에는 두 번 이 상담회가 개최되었고 약 300만달러가 계약되었습니다. 이와 같은 상담회를 더욱 강화하고 실효를 거둘 수 있는 것으로 만들

기 위해서 작년말에 JETRO는 일본기업의 대한민국 비즈니스 니즈조사라는 것을 실시한 바 있습니다. 그 결과 일본시장에서는 한국의 가공식품과 기계, 정보컨텐츠, 그리고 패션 등 이른 바 생활주변에 관련된 네 개의 업종이 큰 관심거리라는 것을 알 수 있었습니다. 특히 올해 9월에 도쿄에서 개최되는 상담회에서는 이와 같은 업종에 초점을 맞추어서 한국측에서 미션을 구성해 주시면 고맙겠습니다. 또 해당업종의 전문가에 의한 대일 비즈니스 촉진 세미나도 개최할 생각입니다. 전략적인 노력을 통해서 그 효과를 더욱 강화하고자 한다는 것입니다.

그리고 세토 회장님의 강력한 리더십 하에 다음 달 5월에는 일한산업기술협력재단이 개최하는 중소기업상담회가 개최됩니다. 이 상담회에도 방금 소개드렸던 조사의 결과를 반영해서 일본기업의 선정, 소개, JETRO IBSC홀 전시장 제공, 도쿄 오퍼구의 공장방문을 스케줄로 잡는 등 준비체제를 현재 갖추어 가고 있습니다. 상당수의 한국기업이 이 상담회에 참가할 것이라는 얘기를 듣고 있습니다.

다음으로 네 번째입니다. 이것은 저희 JETRO가 실시하고 있는 내외지역간의 산업교류, 로컬 투 로컬 사업에 대한 구체적인 성과에 대해 말씀드리겠습니다. 2002년도에 실시한 키타큐슈시와 인천시간의 이 로컬 투 로컬 LL사업의 결과 양국기업들이 ASP대응형 홈페이지 작성 소프트웨어의 공동개발에 성공하였습니다. 그리하여 작년 4월부터 일본 국내에서의 판매가 시작되었습니다. 그리고 나가사끼시와 대전시와의 로컬 투 로컬 LL사업에서는 한국기업이 갖고 있는 TV화상회의시스템에 일본국내 독점판매 계약이 체결되었습니다. 그리고 이시카와현과 대구시의 LL사업에서는 현재 계약 성립을 위한 진지한 대화가 오가고 있습니다.

금년도의 사업에 대해서입니다. 일본과 한국간에는 세 가지의 LL사업을 공동 개최할 계획입니다. 다음 달 토야마시에서는 제5차 한·일(호쿠리쿠) 경제교류회의가 개최됩니다. 이 토야마시에서의 회의에도 JETRO는 다양한 준비체제를 갖추어서 상담회의 성공을 위한 협력을 아끼지 않을 생각입니다. 현재 호쿠리쿠지방과 한국간의 100개가 넘는 기업들이 상담회망을 해오고 있습니다. 이처럼 상호 진지한 교류가 심화되면 작은 것은 작은 것대로 꾸준히 그 실적을 쌓아갈 수 있을 것입니다. 저는 이 부분에 엄청난 잠재력이 숨쉬고 있다고 생각하고 있습니다.

또 하나 커다란 움직임이 있습니다. 소니와 삼성전자의 대형액정패널 생산을 위한 합작회사 설립이라든지 스미토모화학의 칼라필름공장 증설 등 한국에 대한 일본기업들의 투자 안전이 상당히 눈에 띕니다. 노사문제와 같은 투자환경이 더욱 개선된다면 대한 투자라는 것은 앞으로 가일층 박차가 가해질 것입니다.

그럼 널리 동아시아로 눈을 돌려보겠습니다. 일본과 한국과 중국, 그리고 홍콩, 대만, 그리고 아세안 10개국, 이 동아시아 여러 나라간의 경제통합이 급속도로 진전되고 있습니다. 일본과 이들 동아시아 여러 나라간의 무역규모는 일본의 무역규모 전체 중에 45%를 차지합니다. 이 금액은 일본과 NAFTA(미국, 캐나다, 멕시코)간의 무역규모의 거의 두 배에 이르는 금액입니다. 이와 같은 아시아가 차지하는 비중은 해마다 더 커지고 있습니다. 이와 같은 경향은 한국도 마찬가지라고 생각합니다. 앞으로 동아시아는 경제통합을 통하여 하나의 시장으로서 성장해 나갈 것이며 각국은 각각의 경제발전 수준에 따라서 각각의 어떠한 성장의 효과를 거둘 수 있을 것입니다. 다시 말씀드리면 원원의 관계가 형성될 것이라는 것입니다. 문제는 국경이라고 하는 것이 이 경제통합이라는 것을 방해해서는 안된다는 것입니다. 그러기 위해서라도 FTA를 빨리 체결하여 동아시아 자유비즈니스권을 신속히 창설할 필요가 있는 것입니다.

일본과 한국은 동아시아지역에 들밖에 없는 선진국입니다. 서로 솔선수범하여 협력하며 동아시아지역 공통의 시장 룰을 구축해 나가야 합니다. 이를 위해서는 이제 막 협상이 시작된 한일FTA를 신속하게 체결하여 동아시아경제연대의 모델을 제시할 필요가 있을 것입니다. 한일간 FTA가 체결된다면 양국 기업들이 사람, 물건, 돈, 정보, 지적재산권 등등의 경영자원을 자유롭게 활용할 수 있게 될 것입니다. 이를 통해서 한일 양국간의 긍정적인 움직임에 더욱 더 박차를 가할 수 있게 되는 것입니다.

한국에서는 대일 무역적자 확대를 우려하는 소리가 있다고 들었습니다. 저는 이 점에 관해서는 이렇게 생각합니다. 한국은 일본으로부터 수입한 부품이나 원자재를 이용해서 국제경쟁력이 있는 제품을 생산하고 수출하고, 그리하여 전체적으로 무역흑자를 확보하고 계십니다. 이는 매우 건전한 무역구조라고 생각합니다. 좀더 단적으로 말씀드리겠습니다. 경제통합이 더욱 진전되어서 장차 동아시아에서의 수요가 점차 커진다면 이것은 동아시아 역내 각국 입장에서는 모두 내수라는 의미를 갖게 됩니다. 다시 말씀드리면 EU의 역내수요는 EU 각국에게는 모두 내수다 라고 생각하는 감각을 우리도 갖게 될 것이라는 것입니다. 이와 마찬가지로 동아시아경제가 일원화되면 우리 동아시아 역내에 쌍무적인 무역적자라는 것은 논의하는 것 자체가 의미가 없어지는 그런 시대가 도래된다는 것입니다.

이번 회의를 기반으로 해서 중소기업을 포함한 한일간의 경제교류가 가일층 심화되기를 간절히 기대합니다. 그리고 일한경제협회의 고문으로써 JETRO의 이사장으로써 한일 양국 발전을 위해 앞으로도 계속 전력을 다할 것을 약속드리면서 저의 인사말로 대신하겠습니다. 감사합니다.

VI. 基 調 演 說

1. 日本側 基調演說

「日本과 韓國의 새로운 協力關係 構築을 향하여」



奥田 碩 (OKUDA Hiroshi)

日本經濟團體連合會 會長

1. 머릿말

일본경단련의 오쿠다입니다. 오늘은 제36회 일한·한일 경제인회의에 초대해 주셔서 대단히 감사합니다.

방금 소개가 있었습시다만 이곳 나고야를 중심으로 한 도카이(東海) 지역은 일본의 '모노즈쿠리의 중추' '제조업 집적지'로서 일본 경제 활성화에 크게 기여하고 있으며 내년에는 '사랑·지구 박람회'라는 이름으로 지구 환경 보호를 주제로 한 아이치 엑스포가 개최될 예정이어서 커다란 주목을 받고 있는 곳입니다.

작년 대구 회의에 이어서 이렇게 다시 여러분을 나고야에서 뵙게 되어 대단히 기쁘게 생각합니다.

오늘은 일본과 한국의 새로운 협력관계 구축을 향한 과제에 관하여 말씀드리겠습니다.

2. 일본의 경제 상황

먼저 일본 경제의 현황에 관하여 말씀드리겠습니다.

일본 경제의 회복세는 더욱 가속화되고 있습니다. 수출이 대폭 증가했고 설비 투자도 늘어나 경기 회복을 견인하고 있으며, 내수의 주축을 이루는 개인 소비도 회복세를 보이고 있습니다.

또한 2004년도 기업 실적은 2003년도에 이어 증수/증익이 예상되고 있습니다. 중견·중소기업, 비제조업을 포함한 기업의 체감 경기는 전반적으로 개선되고 있으며 경기 회복의 저변이 확대되고 있습니다.

이러한 경기 회복을 배경으로 하여 고용 정세도 호전될 조짐이 보입니다. 실업률은 5%로 여전히 높은 상태지만 완전실업자수는 9개월 동안 계속 감소되고 있으며 반대로 취업자수는 3개월 연속하여 늘어나고 있습니다.

다만 중장년층의 실업률은 개선되고 있는 반면에 청년층 실업률이 높고, 지역,

연령, 직종 면에서 고용의 미스 매칭 현상이 나타나고 있어 고용 정세가 이대로 순조롭게 개선되리라고는 보기 어려운 상황입니다. 앞으로도 계속 주의 깊게 동향을 주시할 필요가 있습니다.

다음으로 향후 전망에 관하여 말씀드리겠습니다. 해외 여건을 보면 미국 경제는 계속 호조를 견지할 것으로 예측되며 중국과 태국을 비롯한 아시아 각국 경제도 확대·회복 기조를 보이고 있습니다. 또 기업 실적 호조에 힘입어 내수도 회복세를 지속할 것으로 보입니다. 따라서 이라크 정세, 금리 및 환율 동향, 해외의 상품 시장 동향 등 불확실한 요소도 있으나 일본 경제는 당분간 회복 국면이 지속될 것으로 예상됩니다.

도시로부터 지방으로, 대기업으로부터 중소기업으로 경기 회복 효과가 파급되고 있는 가운데 일본 경제가 지속적 성장세를 유지하기 위해서는 정부와 일본경단련 등의 민간 부문이 함께 손잡고 구조 개혁에 힘을 필요로 합니다.

첫째로 기업 스스로가 경영 전략, 비즈니스 모델을 재검토할 필요가 있습니다. 그간 일본 기업은 사람·물건·자금 등 3대 과잉의 삭감을 주축으로 한 원가 절감에 쫓기는 상황에 놓여 있었습니다.

이러한 '수비형 구조개혁'을 계속 추진해 나갈 필요가 있습니다만, 동시에 신제품 개발, 신규 사업 개척 등의 '공격형 구조개혁'도 병행시켜야만 일본 기업에서 새로운 성장의 싹이 움틀 수 있는 것입니다.

둘째로 기업의 적극적 활동에 제약을 가하지 않는 환경 정비가 필요합니다. 지역을 한정시켜서 그 곳에서 선행적으로 규제 개혁을 추진하는 구조개혁 특구가 드디어 가시적 움직임을 보이기 시작했습니다만, 이런 시스템도 잘 활용하여 대담한 규제 개혁을 실천해야 합니다. 일본경단련도 전력을 다하여 규제 개혁과 관련된 노력을 경주할 생각입니다.

셋째로 기업과 국민의 장래에 대한 불안의 원인이 되고 있는 사회보장제도와 재정 구조에 관해서도 발본적 개혁을 도모해야 합니다. 향후 장기적으로 지속 가능한 제도를 만들기 위해서는 사회보장 급부의 적정화, 정부 및 지자체를 통한 세출 삭감, 안정적 재정 확보가 불가결합니다.

일본경단련은 소비세를 인상 가능성도 배제하지 않은 가운데 정부에 대해 필요 정책을 건의해 나갈 생각입니다.

3. 일본과 한국을 둘러싼 세계 경제 상황

다음으로 일본과 한국을 둘러싼 국제 경제의 변화에 눈을 돌려보겠습니다. 먼저 여러분도 잘 아시는 바와 같이 NAFTA, EU 등 세계적으로 경제 통합이 이루어지는 가운데 동아시아지역에서도 역내 경제 통합을 향한 움직임이 급진전을 보이고 있습니다.

일본도 이미 싱가포르와 경제연계협정을 체결했고, 멕시코와도 원칙적 합의를 보았으며, 현재 한국은 물론 태국, 필리핀, 말레이시아를 비롯한 아세안 국가들과도 조율중입니다.

일본경단련은 2025년을 향한 비전에서 동아시아 자유경제권 구현을 기치로 내걸고, 산업계 입장에서 동아시아의 경제 연계 움직임을 밀어주고 있습니다. 예를 들면 정부간 협상에 앞서서 각국 경제계와 의견 조율을 하기도 하고 양측 산학관 공동연구회에 참여하여 기업이 직면한 문제와 그 개선 방안을 논의에 반영시키는 등의 활동을 하고 있습니다.

한편 한국에서는 칠레와의 FTA가 올해 4월부터 발효되었고, 현재 일본 외에 싱가포르와 협상을 추진중이라고 듣고 있습니다. 동아시아의 선진국으로서 일본과 한국이 앞으로도 역내 경제 통합을 적극적으로 추진해 나갈 필요가 있을 것입니다.

이를 위해서라도 먼저 일본과 한국의 FTA 체결을 서둘러야 한다는 점을 다시금 강조 드리고자 합니다.

양국간 FTA가 체결되면 일본과 한국이라는 대단히 수준 높은 두 시장이 하나가 되며 양국이 동아시아 시장의 핵심이 될 수 있습니다. 또 이미 다양한 협력 관계를 맺고 있는 양국 기업들이 FTA를 계기로 하여 수평 분업과 개별적 협력을 가일층 강화하여 서로의 경쟁력을 강화시키게 됩니다.

그리고 중국 기타 아시아 여러 나라에 대해서는 말할 나위도 없고 세계 시장에 대한 일본과 한국 기업의 Bargaining Power를 강화할 수 있고, 국제기구에서의 규범 제정시에도 양국의 위상을 높일 수 있다고 생각합니다.

이런 점들을 염두에 두고 일본과 한국의 FTA가 동아시아의 선구적 모델이 될 수 있도록 노력을 기울여야 하며, 자유화 level이 높은 포괄적 FTA를 체결하는 것이 중요하다고 봅니다.

한편, 세계 경제에서는 경제 통합 추세와 더불어 대규모 세력 변화를 예기케 하는 움직임도 일어나고 있습니다.

예를 들면 브라질, 러시아, 인도, 중국 등 4개국은 국명 머리글자를 따서 총칭 'BRICs'로 불리며 최근 그 높은 성장성이 세계의 이목을 집중시키고 있습니다. 어떤 조사에 의하면 BRICs의 GDP합계는 40년 이내에 G6(미국, 일본, 독일, 프랑스, 이탈리아, 영국)를 앞지르고 2050년에는 세계의 GDP 6위권 내에 이 네 나라가 모두 진입할 것이라는 예측까지 나오게 되었습니다.

무역(통상)입국으로 발전해 온 일본과 한국은 앞으로 이런 흐름을 오히려 앞질러 가는 등 과감하게 정세 변화에 대응해 나갈 필요가 있을 것입니다. 한편 동아시아에서는 성장세가 두드러진 중국의 대두에 여하히 대응할 것이냐가 시급한 과제입니다.

중국은 작년에 9.1%의 경제 성장을 달성하고 1인당GDP도 1000불을 넘었습니

다. 또 일본과 중국간의 무역총액만 보더라도 작년에는 1300억불을 넘어섰고 전년대비 31.1%의 눈부신 신장세를 보였습니다. 앞서 보고 드린 일본 경제의 회복은 중국의 경제 성장과 이에 따른 중국으로의 수출 신장에 힘입은 바 컸던 것으로 사려됩니다.

한편 국제적으로 보면 중국은 WTO가입과 더불어 동아시아 역내에서 아세안과의 경제 연계를 위한 기본 협정을 체결, 10년 이내에 중국·아세안간 FTA를 체결하겠다고 선언했습니다. 또 홍콩과 경제무역긴밀화협정(CEPA:세파)을 실시하는 등 경제 연계에 선도적 역할을 수행하기 시작했으며 통상 외교의 중요한 주체로서 그 위상을 꾸준히 향상시키고 있습니다.

또한 중국에서는 새로운 경영 마인드와 뛰어난 전문성 및 국제성을 지닌 비즈니스맨 혹은 테크노라트가 배출되고 있습니다. 최근에는 착실하게 실력을 쌓아 외국 기업과의 연계 하에 해외로 진출하는 중국 기업도 나타나고 있습니다.

이런 상황을 감안하여 일본정단련은 작년 11월에 제가 단장이 되어 중국을 방문, 원자바오 수상을 비롯한 새로운 국가 지도자들과 만나 세계적 시각에서 향후 일중 관계에 대한 의견을 나눈 바 있습니다.

또 올해 3월에는 일본정단련이 통상대화사절단을 베이징과 상하이에 파견하여 WTO가입후의 중국의 비즈니스 환경과 일본 경제계의 대응에 관하여 중국 정부 및 재계와 협의를 가진 바 있습니다.

4. 동아시아 경제 통합을 향한 일본과 한국 경제계의 역할

이러한 정세 속에서 우리 일본과 한국의 경제인들은 향후 동아시아에서의 자유경제권 구축이라는 커다란 사명을 달성하기 위해서 양국간 FTA 체결을 향해 매진하고, 중기적으로는 일본, 한국, 중국 등 3개국의 경제연계협정도 충분히 가능하다는 이미지를 공유한 가운데 일본과 한국간의 구체적 연계를 도모하는 것이 중요하다고 봅니다.

3개국의 경제 연계를 향한 협력에 관해서 말씀드리자면 현재 세 나라의 연구기관들이 공동 연구를 실시하고 있으며 2년 전에는 한중일 경제인들에 의한 비즈니스 포럼도 설립되었습니다.

본 포럼은 이미 서울, 베이징에서 개최된 바 있으며 제3회 포럼은 올해 10월 22일에 도쿄에서 개최될 예정입니다. 일단 한중일FTA에 관해서도 검토하기로 되어 있습니다.

일본정단련은 일한경제협회, 일중경제협회와 더불어 현재 이와 관련된 준비를 추진중입니다. 또한 3개국의 산학관 멤버에 의한 투자협정 관련 비공식 검토회에도 산업계의 일원으로서 논의에 참여하고 있습니다.

다음으로 이런 움직임들이 많은 결실을 거둘 수 있도록 일본과 한국 경제계가

수행해야 할 역할에 대해 말씀드리겠습니다. 첫째로 서로 협력하여 양국간 FTA에 관한 비즈니스 차원의 실무적 검토를 추진하여 FTA 체결을 리드해 나가야 한다는 것입니다.

이런 관점에서 일본경단련에서는 과거 약 5년 동안 전경련과 협력하며 FTA 체결을 위해 노력해 왔습니다. 올해 3월에도 강신호 회장님을 위시한 전경련 회장단과 서울에서 재계회의를 개최한 바 있습니다.

이 때 전경련측으로부터 양국간 FTA 추진과 관련하여 한국의 부품 소재산업계가 깊이 우려하고 있으며 이들 산업의 강화를 위하여 일본의 한국으로의 직접투자를 촉진시켜 달라는 요망이 제기되었습니다.

또 한국 경제계에서도 양국간 FTA의 업종별 영향을 산업계 입장에서 검토하기 위한 체계가 다시 정비되었다고 들었습니다. 일본 경제계로서도 이런 움직임에 십분 협력하여 양국간의 상호 직접 투자를 추진함과 동시에 비즈니스상의 장애요인들을 제거할 수 있는 방안을 검토하기로 합의했습니다.

그리고 한중일 3국의 경제 연계 강화와 관련하여 구체적, 실질적 검토를 추진할 것을 일본측이 제안하였습니다. 일본경단련과 전경련은 '97년에 공동으로 방중대표단을 베이징, 칭타오, 다롄으로 파견하여 당시의 주룽지 부수상과 3국간 산업협력방안에 관하여 의견을 나눈 적이 있습니다. 앞으로는 이러한 실적을 토대로 우선 한중일 3국의 투자 환경 정비에 관한 공동 연구를 실시하기로 하였습니다.

작년에 대구에서 개최된 경제인회의에서는 양국 경제인들이 초심으로 돌아가 일본과 한국의 경제 관계를 재조명하고 허심탄회하게 서로로부터 배우고 협력하는 분위기가 조성되었습니다. 이런 분위기를 토대로 올해 3월에는 방금 말씀드렸듯이 일본경단련과 전경련과의 실질적 대응에 관한 합의가 이루어졌고 그 2개월 후에 본 제36회 일한·한일경제인회의가 개최되고 있는 것입니다.

일본경단련과 전경련간의 일한·한일재계회의와 본 일한·한일경제인회의는 유기적 연계를 유지하면서 중층적으로 양국 경제관계를 촉진시키고 있다고 말씀드릴 수 있을 것입니다.

5. 끝으로

이상 말씀드렸듯이 양국 경제 관계를 가일층 발전시키기 위해서는 FTA 체결과 더불어 양국의 투자환경을 더욱 잘 정비하고, 인적 이동을 자유화, 원활화하며 중소기업, 관광, 문화, 인재 양성 등의 각 분야에서 교류와 협력을 촉진시켜 다양한 관계를 충분한 형태로 추진해 나갈 필요가 있습니다.

일본 국내에서는 최근 한국의 TV프로그램, 연예인, 스포츠 선수에 대한 관심이 폭발적으로 고조되고 있어 실로 기쁘게 생각합니다.

내년은 일본과 한국의 국교 정상화 40주년의 해입니다. '한일 우정의 해'로 명명하여 문화 교류 행사와 캠페인 등 많은 기념 사업이 개최될 예정이며, 이미 100군데 이상의 자매도시 결연이 체결되어 있는 양국간에는 전국적으로 다채로운 활동이 펼쳐질 계획입니다.

모두에 소개 드린 아이치국제박람회에서 양국간 교류를 더욱 확대시킬 수 있는 다양한 시도가 이루어지도록 부탁드립니다. 이런 다양한 사업을 통하여 양국의 서로에 대한 관심이 가일층 고조되기를 기대하는 바입니다.

또 일한경제협회가 추진하고 있는 고등학생 교류 사업도 양국간의 상호 이해를 촉진시키는 것이며 양국 관계 발전 뿐 아니라 동아시아의 경제 발전을 이끌어갈 인재 양성이라는 면에서도 커다란 의의를 지닐 것으로 사려됩니다.

이상 일본과 한국의 경제계를 둘러싼 내외 환경 변화에 관하여 말씀 드렸습니다. 이에 대한 대응의 성패가 앞으로도 일본과 한국이 동아시아의 핵심적 역할을 수행할 수 있는지의 여부를 판가름하는 관건이 됩니다. 또 이러한 제반 문제에 관하여 양국 경제인들이 여하히 창조성을 발휘할 것인가를 아시아 여러 나라와 세계가 주목하고 있습니다.

저 또한 일본 경제계를 대표하여 여러분과 함께 환경 변화에 적극적으로 대응함으로써 새로운 양국 관계를 창조해 나가고자 합니다.

금번 회의의 성공을 기원하면서 이상으로 저의 보고를 마치겠습니다. 경청해 주셔서 감사합니다.

2. 韓國側 基調演說

「東아시아 域內協力과 韓日關係 發展方向」



姜 信 浩
全國經濟人聯合會 會長

1. 머리말

존경하는 세토 유조(瀬戸 雄三) 회장님, 金相廈 회장님, 오쿠다 히로시(奥田 碩) 日本經團連 회장님, 그리고 羅鍾一大사님을 비롯하여 다양한 중에 이 자리를 빛내주신 内外 貴賓 여러분과 韓日 兩國의 經濟人 여러분께 깊은 감사의 말씀을 드립니다. 아울러 由緒깊은 이곳 名古屋에서 이번 행사가 개최될 수 있도록 여러모로 도와주신 愛知縣과 名古屋市關係者 여러분께도 감사의 말씀을 드립니다.

저는 그동안 이 회의에 여러 번 참석하면서 韓日 양국간 협력의 重要性을 절실히 느끼곤 했습니다만 이번에 이렇게 基調演說을 통해 제 생각의 일단을 말씀드릴 수 있게 된 것을 대단히 기쁘게 생각합니다.

2. 어려움에 처한 韓國經濟

그러면 먼저 최근 韓國經濟의 狀況에 대해 잠시 설명드리고자 합니다. 兩國經濟人들이 한자리에 모이는 이런 기회를 통해 서로 상대국의 經濟狀況에 대해 이해를 깊게 하는 것도 매우 의미가 있다고 생각되기 때문입니다.

지난해는 韓國經濟에 있어 대단히 힘든 한 해였습니다. 經濟成長率은 1998년 外換危機 이후 最低水準을 기록하였습니다. 특이한 것은 輸出이 연간 19.3%라는 높은 증가세를 보였음에도 불구하고 經濟成長率은 3.1%에 불과한 특이한 현상이 발생하였다는 것입니다. 經濟成長率이 이처럼 낮은 것은 內需가 극도로 부진하였기 때문인데 지난해 民間消費와 設備投資는 각각 전년대비 0.8%, 0.2% 감소하였습니다.

輸出은 好調를 보이고 內需는 부진한 이른바 兩極化 現狀은 금년에 들어서도 계속되고 있습니다. 즉 輸出은 美國과 日本, 中國 등 韓國의 주요 輸出對象國의 경제가 전반적으로 호조를 나타내고 있어 금년에도 큰 폭의 증가세가 지속될 것

으로 예상되는 반면, 內需는 여전히 회복될 조짐을 보이지 않고 있기 때문입니다.

輸出이 好況인데도 內需가 부진한 것은 輸出이 호조를 보이게 되면 投資와 雇傭이 확대되고 이에 따라 消費도 증가하는 善循環構造가 단절되었다는 데 그 원인이 있다고 보여집니다. 이는 輸出好調가 일부 업종, 일부 기업에 편중됨으로써 그 波及效果가 經濟全體에 미치지 못하고 있기 때문입니다.

이처럼 輸出과 內需, 業種과 業種, 企業과 企業間의 兩極化가 심화되고 있고, 과거 한국의 高度成長을 견인했던 한국기업 특유의 挑戰精神이 점차 약화되고 있는 것이 현재 韓國經濟가 안고 있는 가장 큰 고민이 아닌가 생각합니다.

한국이 「沈滯의 터널」로 진입한 반면 日本은 이제 긴 不況의 터널에서 완전히 벗어난 것으로 보입니다. 輸出과 設備投資가 되살아나면서 최근에는 내수의 기동인 個人消費도 회복의 움직임을 보이고 있는 것으로 듣고 있습니다.

日本經濟의 본격적인 회복은 그동안 中國 중심으로 성장해온 東아시아 경제에 더욱 활기를 줄 수 있는 반가운 소식이 아닐 수 없습니다. 사실 지난해 한국이 景氣沈滯 속에서도 輸出이 호조를 보일 수 있었던 것은 中國의 景氣活況에 힘입은 바가 큼니다.

그러나 금년에는 中國經濟가 過熱防止를 위해 다소 成長速度를 조절할 것으로豫想되고 있고, 반면 日本經濟는 본격적으로 回復되어 한국의 對日輸出이 늘어난다면, 韓國經濟가 中國에 지나치게 의존하는 최근의 현상이 緩和될 것으로 기대합니다.

3. 東아시아 域內協力の 進展

지난 3월 5일에 서울에서 全經聯과 日本經團連 회장단간의 定例交流會가 있었습니다. 방금 일본측 基調演說을 해주신 오쿠다 회장님도 日本經團連의 단장으로서 이 회의에 참석하셨습니다. 그 회의의 주제가 “21세기 東아시아時代를 위한 韓日兩國의 協力方向”이었는데 討論過程에서 매우 좋은 의견들이 많이 제시되었던 것으로 기억합니다.

사실 21세기가 「東아시아의 時代」라는 말은 지난세기 말부터 줄기차게 해왔고, 21세기에 들어선지 몇 년이 흐른 지금에도 여전히 유효하다고 생각합니다. 돌이켜 보면 지난 10여 년간 비록 日本經濟가 長期不況의 늪에 빠져있었다고는 하지

만 동아시아 전체로 볼 때는 世界經濟의 양대 축을 형성하고 있는 유럽이나 북미에 비해 대단히 높은 經濟成長을 이룩해왔고 이러한 추세는 아직도 계속되고 있습니다.

그러나 유럽이 EU, 북미가 NAFTA라는 市場共同體를 기반으로 域內統合을 더욱 강화해 나가고 있는 동안 세계에서 가장 力動的인 經濟成長을 보여주고 있으면서도 域內協力에 있어서는 EU나 北美에 비교할 수도 없을 만큼 매우 느슨한 水準에 머물러 있습니다.

잘 아시는 바와 같이 EU는 다음 달에 東歐 및 地中海沿岸의 10개국을 신규로 가입하여 총 25개국으로 회원수가 늘어나게 됩니다. 이런 추세라면 大西洋에서 우랄산맥에 이르는 전 유럽이 하나의 시장으로 통합하게 될 날도 결코 멀지 않을 것으로 전망됩니다. 이에 뒤질세라 美國, 캐나다, 멕시코의 3개국에 불과하던 NAFTA도 그 영역을 中南美까지 확대시켜 전 미주의 34개국을 아우르는 FTAA, 즉 美洲自由貿易地帶를 내년도까지 창설하겠다는 야심 찬 계획을 추진시키고 있습니다.

이에 반해 동아시아에서는 ASEAN을 제외하면 이렇다할 域內協力機構 조차 없었던 것이 현실입니다. 그러나 最近들어 日本과 ASEAN, 中國과 ASEAN간에 EPA(同伴者關係協定)協商이 추진되고 동시에 「ASEAN + 3 頂上會議」가 점차 정착되어 가는 등 부분적이긴 하지만 갈수록 활발하게 역내협력이 모색되고 있는 것은 매우 고무적인 일이라 생각됩니다.

그러나 域內協력을 향한 일련의 움직임들이 ASEAN에 대한 中國과 日本間の 接近競爭의 樣相을 띠고 있다거나 「ASEAN + 3 頂上會議」가 아직은 原論水準의 宣言程度에 그치고 있다는 점에서 아직 갈 길이 매우 멀다 하겠습니다.

동아시아 經濟統合 또는 동아시아 經濟自由地域을 구축함에 있어 韓國과 日本, 그리고 中國 세나라가 적극적인 역할을 맡아야 함은 再論의 餘地가 없을 것입니다. 그런 차원에서 「ASEAN+3 頂上會議」가 초기의 ASEAN 주도에서 점차 韓日中 3국주도로 변화되고 있는 것은 상당히 의미가 있다고 생각합니다.

실제로 지난해 인도네시아 발리에서 개최된 3국 정상간 회의에서는 처음으로 韓日中 3국이 共同宣言文을 채택하고 3국간 FTA와 投資協定の 추진을 위해 공동 연구를 강화 또는 착수키로 하고 현재 진행중인 협력의 연구, 조정, 감시를 위해 “3자위원회”를 설치키로 합의한 바 있습니다.

앞으로 이 “3자위원회”가 어느 정도 역할을 하게 될지 상당히 주목됩니다만, 어쨌든 작게나마 韓日中 3국이 처음으로 執行力이 있는 정부간 實行機構를 만들었다는 점에서 가시적인 진전이 있었다고 할 수 있겠습니다.

그러나 이러한 정부간 논의만으로는 아무래도 미흡한 점이 많다고 생각합니다. 정부간의 協力進展과 더불어 그동안 民間經濟界에서도 域內協力 확대를 위해 노력을 기울여 왔으나 太平洋 沿岸國 전체나 또는 2국간 차원의 활동만 무성했을 뿐 동아시아만의 협력논의는 드물었던 것이 사실입니다.

특히, 韓日中 3국간에도 韓·日, 韓·中, 日·中 등 兩者間 經濟協力은 여러 분야에서 다양하게 전개되어 왔지만 3국 기업인들이 한 자리에 모여 相互協力과 理解増進을 도모하는 기회는 별로 없었습니다.

단지 2002년부터 한국의 全經聯, 日本經團連, 中國 CCPIT가 주관이 되어 “韓中日 비즈니스 포럼”이라고 하는 협력채널이 가동되기 시작했습니다. 이 “韓中日 비즈니스 포럼”은 電子, 自動車, 鐵鋼, 石油化學 등 주요 업종별로 분과회의가 운영되고 있어서, 말하자면 韓日中 3국간 産業協力會議의 성격도 지니고 있습니다. 오는 10월 22일 東京에서 제3차 포럼이 日本經團連 주최로 개최될 예정인데, 회를 거듭할수록 參與業種도 확대되고 에너지나 환경 등과 같이 업종의 영역을 뛰어넘는 주제들도 다루게 될 것으로 보입니다. 앞으로 이러한 포럼의 기능을 한층 강화시켜 명실상부한 韓中日 經濟人會議로 발전시켜 나가는 것도 필요하리라 생각합니다.

최근 日本經濟新聞 등 韓中日 3국의 주요 신문사가 3국의 기업인을 대상으로 공동으로 실시한 조사에 따르면 구체적인 추진방법에 대해서는 다소 이견이 있지만 韓中日 3국의 경영자의 약 70%가 3국간 自由貿易協定이 필요하다고 느끼고 있는 것으로 나타났습니다. 이러한 결과만 보더라도 동아시아 협력의 장래는 활짝 열려있으며 단지 그 進行速度를 더욱 빠르게 하는 것이 과제라 하겠습니다.

4. 韓日FTA의 성공을 향하여

이제 화두를 韓日 양국간의 협력, 그 가운데서도 당면한 가장 핵심적인 현안인 韓日FTA로 돌려보겠습니다. 우리 두 나라 經濟人들의 수년간의 노력이 밑거름이 되어 동아시아 巨大統合市場의 형성의 橋頭堡이자 構造改革 촉진의 지렛대가 될 韓日FTA 체결을 위해 한국과 일본의 정부간 협상이 한창 진행 중입니다.

다음주 월요일에도 韓日FTA 정부간 제3차 회의가 서울에서 개최됩니다. 韓日兩國間에 FTA 締結이 東아시아 전체의 貿易投資 自由化를 앞당기는데 決定的인 役割을 하게 되리라는 것은 분명합니다.

그러나 실제 협상이 진행되면서 FTA의 自由化 水準과 관련하여 양측간에 다소 이견이 표출되는 것으로 알고 있습니다. 韓國에서는 韓日FTA의 當爲性에 대해 아무런 異見이 없음에도 不拘하고 各 産業이나 企業別로 들어가면 利害가 엇갈리는 部分이 많은 것이 現實입니다.

특히, 日本으로부터의 輸入依存도가 큰 機械産業과 部品・素材分野의 企業, 특히 中小企業들로부터는 強한 憂慮의 목소리도 나오고 있습니다. 이렇듯 반발의 목소리가 점차 강해지는 데에는 韓國 汎用製品들이 中國産 제품들에게 빠른 속도로 추월당하고 있는 상황에서 막강한 경쟁력을 갖고 있는 日本製品들에게 마저 문을 활짝 열게 된다면 더 이상 生存이 어렵다는 不安感 때문입니다.

FTA는 對外貿易 依存도가 큰 韓國의 立場에서 피할 수 없는 選擇이지만 칠레와의 FTA가 農民團體들의 極烈한 反對로 國會批准이 上程 4차례 만에 지난 2월에 겨우 通過되었을 만큼 國民全體의 合意가 要求되는 事案입니다. 따라서 韓日 FTA가 圓滿히 妥結되기 위해서는 이처럼 憂慮를 하고 있는 産業部門을 說得해야 합니다.

저는 여기에서 「韓日FTA 産官學 共同研究會」 最終報告書에 나타난 “貿易自由化를 넘어서 構造改革 促進 등 경제전반에 긍정적 충격이 되고, FTA로 인한 이득이 양국간 균형을 이루어 兩國經濟에 모두 도움이 되는 FTA”라는 基本原則을 재삼 상기해 볼 필요가 있다고 생각합니다.

또한 정부간 협상과 병행하여 韓日 經濟界가 民間次元에서 업종별 이견을 최소화하고 양국간 투자를 확대하기 위한 논의를 지속해 나가야 한다고 봅니다. 마침 내일 제2분과에서는 「韓日FTA와 兩國 中小企業 活性化 對策」을 다루기로 되어 있는 만큼 양국 기업인 여러분이 함께 머리를 맞댄다면 여러 좋은 방안이 나올 것으로 기대합니다.

앞으로 協商過程에서 적지 않은 難關에 逢着하게 될 것이지만 그럼에도 불구하고 韓日FTA는 兩國經濟에 모두 이익이 되는 相生의 FTA로, 그리고 東아시아 經濟統合의 模範이 될 수 있는 FTA로 탄생하리라 굳게 믿고 있습니다.

5. 相生の 韓日間 戰略的 提携가 더욱 강화되어야

머지 않은 장래에 韓日FTA가 토대가 되어 韓中日FTA, 나아가 東아시아 經濟 共同體가 현실로서 우리들 눈앞에 펼쳐질 것입니다. 지난 2002년 세계 어느 누구도 예상치 못했지만 韓國과 日本이 공동으로 아시아에서 처음으로 월드컵을 개최하였던 것처럼 말입니다.

그러나 당장 내일 韓日FTA가 이루어진다고 해도 우리 韓日의 經濟人들이 國境을 뛰어넘는 활발한 비즈니스 활동을 전개치 않는다면 市場 및 投資 확대가 기대했던 만큼 나타나지 않을 수 있음도 유념해야 한다고 저는 생각합니다. 그 예로서 2002년 韓日投資協定이 발효되었습니다만, 당초 기대와 달리 兩國間 相互投資 擴大效果는 거의 없었다는 점에 주목해야 할 것입니다.

모두에서 저는 현재 韓國經濟의 상황이 매우 어렵다고 말씀드렸습니다만 지금 한국에서는 많은 긍정적인 변화가 일어나고 있습니다. 얼마 전 大統領 彈劾이라는 놀라운 일이 발생했어도 社會나 國民들이 전혀 동요하지 않는 탄탄한 國家시스템을 보여주었고, 1주일 전에 있었던 總選舉에서도 與黨인 열린우리당이 過半議席 확보에 성공함으로써 향후 정치적으로 안정된 상황하에서 經濟回復에 진력해 나갈 수 있을 것으로 예상됩니다.

이러한 변화는 각 부문으로 파급되어 韓國社會가 더욱 튼튼하고 건전하게 발전하는 계기가 될 것으로 확신합니다. 또한 한국은 高級人力, 높은 R&D 生産性, 충실한 基盤産業 인프라 등을 갖추고 있습니다. 여기서 자세히 설명드리지는 못하지만 外國企業들이 한국에 투자를 하고자 할 때 가장 걱정하는 勞使問題도 그 實狀은 많이 다릅니다.

제가 알고 있기로는 최근 日本의 디지털가전 등 電子業界의 設備投資는 해외보다 原資材 조달 등의 문제로 주로 日本 國內에서 이루어지고 있다고 들었습니다. 그러나 앞으로 해외투자를 고려할 때는 戰略的 投資處로서는 韓國을 적극 활용하여 주시기 바랍니다.

中國經濟의 급부상으로 최근 수년간 대단히 부진했던 韓日兩國間 相互投資가 확대되고, 韓日FTA를 계기로 兩國經濟의 構造改革이 가속화되면 양국간 經濟交流의 量과 質이 한 차원 높은 단계로 발전될 것이며, 이를 바탕으로 지금까지 世界經濟의 주변에 머물러있던 동아시아가 活力과 魅力 넘치는 中心地로 탈바꿈하는 「東아시아 自由經濟共同體」가 구현되기를 저는 꿈꾸고 있습니다.

끝까지 傾聽해 주셔서 감사합니다.

VII. 全 體 會 議 I

1. 一般經過報告 (書面)

지난 2003년 4월, 대한민국 대구광역시에서 개최된 제35회 한일·일한경제인회의에서 합의된 각 사항의 실시 상황 및 이와 관련된 양국간의 협력사업 등에 대해 보고 드리겠습니다.

그리고 본 회의의 산하 전문위원회인 한일산업무역회의와 한일중견경제인교류미션 및 한일중견중소기업위원회에 관해서는, 잠시 후 일본측의 각 대표로부터 보고가 있을 예정이므로, 본 일반경과보고에서는 생략하도록 하겠습니다.

(1) 韓日 兩國 産業技術協力財團의 사업에 관한 사항

한일 양국간의 산업·기술 협력을 통해 경제적 현안인 대일 무역불균형을 개선함과 동시에, 상호교류를 통해 발전적이고 미래 지향적인 한일관계의 정립에 기여하기 위하여, 1992년에 양국 정부간의 합의로 양국에 설립된 산업기술협력재단은, 양국 정부 그리고 관련 경제단체 및 기업 등의 적극적인 지원과 참여 속에 광범위한 활동을 계속해 오고 있습니다.

작년에도 양국 재단은, 산업기술 인재육성사업, 생산성향상 협력사업, 산업기술 교류사업, 조사 홍보사업 등 폭넓은 사업활동을 전개하였으며, 양국 재단에 의한 공동사업을 10건 실시하였습니다.

이러한 한일 양국간의 산업기술협력사업은 한국의 중견·중소기업의 향상과 양국 산업간의 협력 네트워크 구축에 크게 기여하였으며, 향후에는 동북아시아 시대의 도래에 대비하여 부품·소재 산업 및 지역간 협력사업을 적극적으로 개발·추진함으로써 양국이 Win-Win하는 방향으로 사업을 전개해 나가지 않으면 안 된다고 생각합니다.

작년에는 그 첫걸음으로서 양국의 中堅・中小企業 相互補完 商談會를 서울에서 양국 재단의 공동 사업으로 실시하여, 71건의 상담 중에서 성립 유망안전에 대해서는 계속 서포트 해 나가고 있습니다. 본 상담회는 금년도에도 東京(도쿄)·서울에서 계속하여 실시할 예정입니다.

(2) 韓日靑少年交流事業에 관한 사항

한일 국교정상화 20주년을 기념하여 1985년 이후 양국의 여름방학 기간을 이용하여 실시하고 있는 한일청소년교류사업은, 작년도에는 7월 하순에 한국의 대학생 30명으로 구성된 第19回 韓國大學生 訪日團이 일본을 방문하였으며, 일본에서는 8월 하순에 18명의 第16回 日本大學生 訪韓團이 한국을 방문하였습니다.

양국의 대학생들은 각각 7박 8일간의 상대국 체재기간동안 학생 교류·문화 산업시설 견학·고적지 방문, 상대국 가정으로의 홈 스테이 등 다양한 활동을 통해 이웃나라의 산업·사회·문화를 직접 접함으로써 폭넓은 상호 이해와 우호 친선을 증진시킬 수 있었습니다.

그리고 금년 1월에는 한일 양국의 차세대를 젊어질 젊은이들의 교류를 보다 더 증진시키기 위해, 한국 고교생 50명의 방일단에 의한 4박 5일간의 체재기간동안, 일본의 고교생 62명과 함께 1박 2일의 「경제 캠프」를 통해 합숙을 실시하였습니다. 이것은 한일의 고교생이 서로 자국의 관광·문화를 상대국에 판매하는 기획 제안을 공동으로 만들어내는 것으로서, 양국 정부 관계부처의 후원을 얻었을 뿐만 아니라 양국의 언론에도 크게 다루어졌습니다.

(3) 地域間 交流協力事業에 관한 사항

한일 지방간 산업협력을 촉진함으로써 지역경제활성화에 기여하기 위하여 한일 경제인회의의 지방개최와 더불어, 일본 큐슈지역과의 무역·투자·산업기술협력 확대를 논의하는 第10回 韓・日(九州) 經濟交流會議가 작년 7월 14일부터 16일까지 대한민국 제주도에서 개최되었습니다. 또한 지역간 교류를 확대하기 위해 日本 北陸(호쿠리쿠)지역과도 매년 정기적으로 경제교류회의를 개최해 오고 있으며, 第4回 韓・日(호쿠리쿠) 經濟交流會議를 작년 5월 28일부터 30일까지 대한민국 대구광역시에서 개최한 바 있습니다. 한편, 세계적인 地域主義 추세에 대응하여 韓・中・日 3國의 環黃海 地域間 協力を 통해 무역·투자·기술협력을 촉진하고 環黃海經濟圈 나아가 東北亞地域의 경제공동체를 구축키 위해 실시하는 第3回 環黃海 經濟・技術交流會議가 작년 9월 23일부터 26일까지 中國 威海市에서 개최되었으며 금년에는 10월경 일본 宮崎(미야자키)에서 제4회 회의가 개최될 예정입니다.

이와 같은 지역간 협력을 통해 양국간 지역산업발전에 기여해 오고 있으며, 양국간의 무역·투자·기술협력을 촉진시키기 위한 다양한 사업들을 발굴하여 추진해 오고 있습니다.

(4) 韓國訪日輸出促進團에 관한 사항

본 사업은 한국측은 韓日經濟協會가, 일본측은 日本貿易振興機構(JETRO)가 상호 협력하여 실시하고 있습니다.

작년에는 2회의 수출촉진단을 일본에 파견하였으며, 총 54개사 91명이 東京(도쿄), 大阪(오사카)를 비롯한 4개 도시에서 輸出商談會를 개최하여 양국 기업의 교류확대 및 한국 중소기업의 일본시장 진출에 크게 기여하였습니다.

금년에는 보다 효율적인 상담성과를 도출하기 위하여 사업의 집약 실시, 일본 기업 니즈의 사전조사를 통한 새로운 업종 파견, 일본전문가 초청세미나를 개최하여 국내 중소기업의 일본시장 진출 노하우를 제공하는 등 양국간 교역 확대를 위해 다각적인 노력을 기울여 나갈 계획입니다.

(商談會 概要)

次數	期 間	規 模	業 種	訪問地域	商談件數
1	6. 9 ~ 6. 13	28個社 (44名)	雜 貨 消費財	福 岡 大 阪	308件
2	10. 14 ~ 10. 18	26個社 (47名)	織 維 加工食品 電機・電子	名古屋 東 京	157件
合 計		54個社 (91名)		4個都市	465件

2. 韓日産業貿易會議 報告



安武 史郎 (YASUTAKE Shiro)

日本側 兼어넌代行

방금 소개하신 바와 같이 작년 11월 千葉(치바)현 浦安(우라야스)시에서 개최된 「제5회 한일산업무역회의」에서 일본측 코디네이터를 담당한 双日(소우지츠)주식회사의 安武(야스타케)입니다. 회의개최 당시는 三井(미쓰이)물산 주식회사의 木村 伸一(기무라 신이치) 전고문이 兼어넌을 담당하셨습니다만, 그 후 퇴임하셔서 제가 대신 보고 드리게 되었습니다. 많은 양해 부탁드립니다.

여러분께서도 잘 알고 계신 바와 같이 「한일산업무역회의」는 한일·일한경제인회의 산하의 전문위원회 중 「무역투자위원회」, 「기계공업위원회」, 「산업일반위원회의」의 3개 위원회를 통합하여 1999년에 새롭게 발족한 회의입니다. 제1회 木更津(기사라즈), 제2회 서울, 제3회 福岡(후쿠오카), 제4회 제주도에 이어 작년 제5회 회의는 東京(도쿄)수도권에서 개최되었습니다.

한일 양국의 경제위원이 각각의 전문분야에 구애받지 않고 더욱 폭넓은 분야에서 관심과 인식을 공유하고, 편안한 분위기 속에서 시의 적절한 주제에 대한 자유토론을 통해 정보와 의견을 교환하는 것이 본 회의 개최의 가장 큰 목적입니다.

때마침 작년 산업무역회의를 개최하기 직전에 「한일 자유무역협정」(FTA)에 대한 양국 정부간의 공식협상 개시가 결정되었습니다. 한일 양국의 경제인이 오랜 기간동안 논의해온 FTA의 조기체결이라는 테마가 이제 정부교섭 단계에 이르게 된 것입니다.

저희 민간 경제인은 양국 정부가 목표로 하고 있는 「2년내 체결」이 아닌 가능한 빠른 시일 내에 한일FTA 체결을 실현하도록 환경을 만들어나가자는 취지로 지난번 산업무역회의에서는 한일 『중소기업교류』와 『지방산업교류』를 주제로 채택하였습니다. 이는 한일 FTA 산학관 공동연구회의 광범위한 논의중에서도 특히 집중 거론된 교류촉진을 미래지향적인 테마로 삼은 것입니다.

회의에는 한국측에서 চে어맨을 맡고 계시는 李錫瑛 한국무역협회 상근부회장님, 코디네이터이신 李洙喆 삼성물산 주식회사 부사장님을 비롯하여 총 17명의 위원이 참가하였고, 일본측에서는 চে어맨을 맡고 계신 木村 伸--(기무라 신이치) 三井(미쓰이)물산 주식회사 전 고문님, 코디네이터인 저 安武(야스타케) 등 29명의 위원이 참가하는 등 양국에서 총 46명이 열띤 토론을 벌였습니다.

회의는 2개의 세션과 자유토론으로 나뉘어 진행되었습니다.

<제1세션>에서는 「한일 중소기업연계를 목표로 - 중소기업과 중소기업, 대기업과 중소기업의 연계」라는 주제 하에,

- ① 일본측에서는 주식회사 노무라종합연구소의 高田 伸朗(다카다 노부아키) 산업·도시정책그룹실장님이 「한일 중소기업교류의 미래 전개에 대해」라는 테마로 주제발표가 있었습니다. 그리고,

- ② 한국측에서는 재단법인 한일산업기술협력재단의 許南整 이사님이 「한일 중소기업간 협력방안 - 실태조사 및 기업간 상담사례를 중심으로」라는 테마로 주제발표를 하셨습니다.

高田(다카다)실장님과 許南整 이사님은 양국의 산업기술협력재단이 작년 10월 23일 서울 롯데호텔에서 공동으로 개최한 「제1회 한일중소기업상담회」와 관련, 향후 운영방안, 양국 중소기업의 상호 연계에 대한 기대와 효과 등에 대해서도 발표하셨습니다.

참가위원들은 한일중소기업 제휴와 관련, 시대적 상황에 맞는 상담회 방식이 요구되며 중소기업 상담회 개최시 Face to Face 상담과 병행하여 인터넷(멀티미디어, 매스미디어)을 활용한 상담회 추진이 필요하다고 주장하셨습니다. 또한 앞으로는 종합상사, 대기업의 역량과 인프라를 활용하여 중소기업 협력사업과 유기적으로 연계하여 추진할 필요성이 있고 한일간 중소기업 교류에 있어서 가장 중요한 것은 인간관계 구축이라는 등의 의견도 제시하셨습니다.

<제2세션>에서는 「한일 산업클러스터 계획사례 - 한일 지방산업연계를 목표로」라는 테마를 가지고,

- ① 일본측에서는 경제산업성의 井上 裕行(이노우에 히로유키) 지역경제산업그룹 산업클러스터계획추진실장님이 「산업클러스터계획에 대해서」라는 테마로 주제발표를 하셨습니다. 그리고,
- ② 한국측에서는 한국산업연구원 洪珍基 지역산업팀장님이 「한국의 산업클러스터정책과 한일 산업협력방안」이라는 테마로 주제발표를 하셨습니다.

참가하신 위원중에는 「산업클러스터」라는 용어가 생소하셨을 것으로 생각되지만 이는 계몽적인 의미도 있었습니다. 또한 토론에는 두 분 강사님도 적극 참여해주셨으며 내용면에 있어서도 미래지향적인 질문이 많이 나와 의미 있는 토론이 되었습니다.

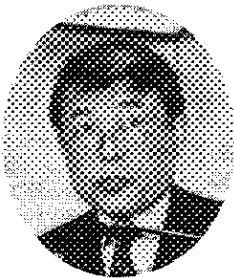
특히 ①양국 정부의 정책담당자이신 井上(이노우에) 실장님과 홍진기 팀장님이 산업무역회의를 통해 상대국의 현 상황을 이해하고 의견을 교환한 점, 그리고 ② JETRO 서울센터가 최근의 일본 福島(후쿠시마)현과 한국 강원도의 의료기기 관련 산업클러스터 연계 사례를 소개한 것 등이 인상에 남으며, 지리적으로 가깝고 서로 국내와 큰 차이가 없는 한일 양국의 지방간 교류에 대한 기대를 더욱 강하게 느낄 수 있었습니다.

<자유토론>에서는 산업무역회의의 향후 운영방안에 대한 의견 교환과 한일 FTA 정부간 협상에 대한 적극적인 제언의 필요성, 나아가 상위 회의기구인 본 「나고야 한일경제인회의」의 운영·테마에 대해서도 논의가 있었습니다. 그리고 한일산업무역회의의 활성화 필요성에 대해 한국측의 제안이 있었으며 현재 많은 중견·중소기업이 참여할 수 있도록 실무작업이 진행중인 것으로 알고 있습니다.

오늘 바쁘신 가운데 참석해주신 한일 양국 위원 여러분들께 다시 한번 감사의 말씀을 드리며 「한일산업무역회의」가 앞으로도 적극적이며 건설적인 의견을 자유로이 토론하는 장소로서, 더욱 유익한 양국 경제인 회의가 되도록 협력해 주실 것을 부탁드립니다.

이상으로 제5회 한일산업무역회의의 보고를 마치겠습니다.
경청해 주셔서 감사합니다.

3. 韓日中堅經濟人交流미션 報告



麻生 泰 (ASO Yutaka)
日本側 團長

방금 소개받은 일본측 단장을 맡고 있는 麻生(아소)입니다. 오늘은 제가 2건의 보고를 드리겠습니다. 첫 번째는 작년 9월에 개최된 「제14회 한일·일한중견경제인교류 MISSION」 활동에 대한 보고, 두 번째는 본 MISSION을 발전적으로 해산하는 것에 대해 여러분께 양해를 얻기 위한 보고입니다.

먼저 「제14회 한일·일한중견경제인교류MISSION 서울회의」의 보고를 시작하겠습니다. 작년 9월 18일과 19일 양일에 걸쳐 일본측 23명과 한국측 43명이 참가하여 서울에서 개최되었습니다.

제1세션에서는 한국노동연구원의 李源德 원장께서 「한국 노사관계의 현실과 과제」라는 테마로 한국의 노사관계의 역사를 풀어보고 노사조직의 특성과 변화, 노동운동 이념의 변화, 노사협상의 특징과 문제점에 대해서 발표하셨습니다. 참가자들 사이에서도 활발한 질의응답이 이루어져 향후 건전한 노사관계를 쌓아 가는데 많은 도움이 되리라 기대됩니다.

제2세션에서는 지금까지 거론되지 않았던 분야인 「서비스업분야」에 대해, 일본측에서는 일본항공(주)의 益子 隆(마스코 타카시) 부사장께서 「관광산업촉진에 의한 사회와 경제의 활성화」라는 테마로 그래프를 사용하여 참가자가 이해하기 쉽게 발표해주셨습니다. 세계 관광산업분야의 취업인구는 8% 정도 규모인 점, 앞으로 많은 증가가 기대되는 성장 산업이라는 점, 또한 국제관광은 세계최대의 수출상품이라는 점 등을 발표해주셔서 참가자 여러분의 많은 관심을 끌었습니다.

또한 한국측에서는 동아해운(주)의 李潤載 회장께서 「한일 해상운송서비스 역사와 전망」이라는 테마로 컨테이너항로를 중심으로 매우 흥미로운 말씀을 해주셨습니다.

주제발표 후의 질의응답과 자유토론에서는 강사님의 풍부한 경험을 바탕으로 한 교훈에 찬 말씀을 듣고 매우 감동 받았으며, 또한 솔직하고 열띤 토론이 이루어졌다고 생각합니다.

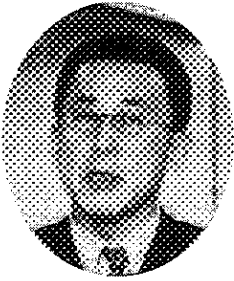
두 번째 보고는 본 MISSION의 발전적 해산에 관한 것입니다.

본 MISSION은 1989년 제21회 한일·일한경제인회의에서 한국측이 제안하고 일본측이 이를 수락해서 발족되었습니다. 본 MISSION은 경제인회의의 하부기구의 하나로서 1990년에 제1회 회의를 개최한 이후 작년까지 14회의 MISSION 상호파견을 실시하여 그 활동을 한일·일한경제인회의에서 보고해왔습니다. 본 MISSION의 설립이 제안된 당시 배경을 살펴보면 한일 경제관계증진을 담당하는 많은 한국 경제인들이 차츰 현역에서 물러나고 젊은 경제인이 제일선에 서게 되면서 젊은 경제인들의 일본에 관한 부족한 지식을 확충하고, 일본 중견경제인과의 교류를 확대하여 한층 발전된 경제협력관계를 구축하고자 하기 위한 것이었습니다.

오랜 기간에 걸쳐 14회의 상호방문을 통해 본 MISSION은 당초 계획하였던 사명을 충분히 다하였다고 판단되어 한국측 설원봉 단장님과 논의한 결과 미션 중지에 대해 의견을 같이 하게 되었습니다. 이를 양국협회에서 협의한 결과 작년 MISSION을 마지막으로 한일·일한중견경제인교류MISSION을 해산하기로 합의하였습니다.

이상 본 MISSION 해산에 관한 여러분의 많은 이해와 양해를 부탁드립니다. 오랫동안 여러분으로부터 받은 지원과 협력에 깊이 감사 드립니다. 이상으로 본 MISSION에 대한 보고를 마치겠습니다. 대단히 감사합니다.

4. 韓日中堅中小企業委員會 報告



田勢 修也 (TASE Shuya)

日本側 委員長

방금 소개받은 일본측 위원장인 전국중소기업단체중앙회 타세 전무입니다. 오늘은 우리들이 본 중견중소기업위원회를 현재 시점에서 검토·협정한 결과, 발전적으로 해체함에 있어 여러분의 이해를 구하고자 보고를 드리며, 우선 중견중소기업위원회의 경위에 대해 간단히 회고해 보겠습니다.

1981년 제13회 한일·일한경제인회의에서 양국 중견 중소기업간의 협력을 위해 중견중소기업위원회 설치를 한국측에서 제안하고 일본측이 이를 받아들였습니다.

본 위원회는 경제인회의의 하부기구의 하나로서 설치되어 1983년 제1회 합동회의를 개최한 이후, 20년 동안 양국 중소기업 관련 제문제의 협의, 각 업계별 교류회 등의 활동을 양국간 상호 실시하고 그 활동내용을 한일·일한경제인회의에서 보고해 왔습니다.

이처럼 오랫동안 지속적으로 성과를 올리며 계속 유지할 수 있었던 것은 역대에 걸쳐 양국 경제협회 회원 여러분과 적극적으로 참가해 주신 중소기업 관계자 여러분의 도움이 있었기에 가능할 수 있었으며, 마음속으로 깊이 감사 드립니다.

한편, 현재 양국간의 중소기업 협력에 관한 활동에 초점을 맞추어보면 비즈니스로 직결하는 보다 실천적인 중소기업협력의 필요성과 중요성이 한층 증가하고 있습니다.

가까운 예로 1992년 양국에 설치된 한일산업기술협력재단의 중심적인 사업으로 중소기업지원 제 활동이 있습니다. 그 실질적인 활동이 설립 후 10년 동안 양국 중소기업계에 높이 평가되며 정착되어 왔습니다.

더욱이 새로운 시도로 양국 중소기업간 상호보완을 목적으로 상담회를 양국 제단과 협회가 기획하고, 제1회 상담회를 지난해 10월 서울에서 실시하였습니다. 이것은 일본의 여러 가지 업종별 중소기업 중에서 한국과의 비즈니스에 큰 관심이 있는 중소기업 9개사가 내용을 정해 한국 기업에 소개하고 일본기업에 관심이 있는 한국기업 53개사와 상담회를 열었던 것입니다.

참가한 양국 중소기업은 매우 성의껏 상담하였고 참가기업으로부터 만족스러운 평가를 받았습니다. 계속해서 제2회 상담회는 금년 5월 동경에서 개최기로 하고 현재 준비중에 있습니다.

이 같은 양국 재단의 중소기업 지원 제 활동이 증견중소기업위원회 활동과 역할을 충분히 커버하고 있으며, 재단의 중소기업 제 활동을 지원·협력하는 것이야말로 보다 실천적이고 효율적인 성과를 올리는 것으로 양국 사무국이 상호 협의하고, 그 결과 증견중소기업위원회의 발전적 해체를 합의하였습니다.

이상으로 본 위원회의 발전적 해체에 관한 여러분의 이해를 부탁드립니다.

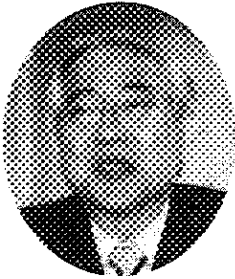
20년 동안 여러분들이 보내준 지원·협력에 대해 더 없이 감사 드리며, 앞으로도 재단 및 협회가 이후 기획·실시하는 중소기업 지원 제 활동에 대해 지도편달을 부탁드립니다.

감사합니다.

Ⅷ. 全體會議 Ⅱ

1. 日本側 主題發表

「韓日關係의 展望」



小倉 和夫 (OGURA Kazuo)

獨立行政法人 國際交流基金 理事長 / 前 駐韓日本國大使

김상하 회장님, 세토 유조 회장님, 새로운 친구를 만날 수 있는 기회를 주셔서 감사합니다. 이런 오랜 역사를 지닌 한일·일한경제인회의에 참석할 수 있어서 대단히 감사하게 생각합니다.

실은 저는 1997년 가을에 한국의 일본대사관에 부임을 한 적이 있습니다. 그때 여러 선배님들, 혹은 친지들로부터 자네는 계란을 비켜갈 수 있는 기술을 아느냐는 질문을 들었습니다. 옆에 사람이 계란이 아니라 돌을 비켜갈 수 있는 기술이 필요하다는 말을 하였는데 무슨 소리인가 했습니다. 그때 한참 시위가 많아서 계란도 던지고 토마토도 던지고 했습니다. 그렇기 때문에 그것을 피하는 방법을 익히는 것이 좋겠다는 말이었던 것 같습니다. 실제로 서울에 부임을 해서 가봤더니 거의 매주 시위가 있었습니다. 그렇지만 다행히도 계란이나 토마토, 돌이 날아오지는 않았습니다. 다만 어느 날 시위하는 사람들이 북을 치는 것을 알았습니다. 잘 들어보니 그 북소리는 한국에서 아주 유명한 판소리인 춘향전 중에 아주 유명한 구절을 부르면서 연주하는 소리였습니다.

제가 왜 이런 얘기를 드리는가 하는 점을 말씀드리겠습니다. 그때 저는 일본인들 입장에서 볼 때 한국 분들의 심정, 마음을 이해하는 것이 중요하다 라고 하는 것을 뼈저리게 느꼈습니다. 오늘 저는 이 자리와 어울리지 않는 얘기일지는 모르겠습니다만, 제 나름대로의 얘기를 드려 보겠습니다. 역시 일본사람들은 한일 관계에 있어서 과거사 문제를 잊어서는 안된다고 생각합니다. 한국 분들은 잊을 수 있을지 몰라도 일본사람들은 잊어서는 안된다는 것입니다. 그런데 실질적으로는 반대입니다. 일본사람들은 잊고 한국사람들은 잊지를 않고 있습니다. 저는 원래는 일본사람들은 잊어서는 안되고 한국사람들은 잊을 수 있는 일이라고 생각하고 있습니다.

저는 일본과 한국이라는 두 나라는 이웃이다 보니까 아무래도 역사적으로나 혹은 현상황에서나 마찰거리가 생기기 쉬운 관계라고 생각합니다. 그러나 마찰거리가 많다고 하는 것은 다시 말씀드리면 함께 공동으로 해나갈 수 있는 일도 많다는 의미일 것입니다. 아까 김상하 회장님께서 하네다/김포간의 항공노선에 관해서 말씀하셨습니다만, 지금 바로 그런 일들이 실제로 구현이 된 것입니다. 또 세토 회장님께서 말씀하셨던 점, 일한경제협회가 한일 고교생 경제캠프라고 하는 것도 실시하셨습니다. 이것은 바로 일본과 한국이 가까운 이웃이기 때문에 이루어질 수 있었던 일입니다.

그리고 저는 예전부터 이런 생각도 하고 있습니다. 오늘 이 자리에는 김재철 회장님처럼 어업분야의 전문가도 계십니다만, 일본과 한국의 해저에 공동으로 해저목장을 만들어 볼 수 없는가 하는 생각도 합니다. 그리고 한일간의 해저터널에 대해서는 여러 구상들이 이미 나와 있습니다. 이렇듯 바로 이웃이기 때문에 지리적인 근접성을 이용한 어떤 공동의 대처라고 하는 것이 가능할 것이라고 생각하는 것입니다.

그리고 바로 이웃이다 보니까 안보라는 문제도 중요합니다. 한반도의 안보라고 하는 것은 일본 입장에서도 매우 중요합니다. 그러나 이 한반도의 안보라고 하는 것은 비단 한일에 국한된 문제가 아닙니다. 미국, 러시아, 중국, 이 나라들과의 관계를 어떻게 형성할 것인가 하는 것이 바로 한국과 일본의 안보에 직결된다는 것입니다. 그러니까 앞으로는 중국과 러시아, 그리고 미국, 이 주변국가들과의 대화가 대단히 중요하다고 생각합니다. 그런 의미에서 이 '6자 회담'이라고 하는 것이 일단 궤도에 올랐다고 하는 것을 대단히 기쁜 일이라고 생각합니다.

그리고 안보문제와 더불어 한일관계에 중요한 것이 경제문제입니다. 한일간의 경제적 파트너십이라고 하는 것을 많은 분들이 언급하고 계십니다. 저는 무역정책은 물론이려니와 역시 경제정책, 재정정책, 금융정책과 같은 분야에서 한일 양국이 정책분야에서의 협조를 할 필요가 있다고 생각합니다. 이와 같은 정책면에서의 협조라고 하는 것을 이제 검토하기 시작할 때가 되었다고 생각합니다. 그리고 미시적인 무역에 대해서는 국제적인 규범에 걸맞는 행동을 할 수 있어야 한다는 것입니다. 일본 입장에서 보면 역시 농업, 수산업 같은 분야에서도 국제적인 규범과 어긋나는 일을 해서는 안된다고 생각합니다. 한일 모두에게 이와 같은 하나의 룰은 중요하다고 생각합니다.

그 다음으로 한일FTA에 대해서 지금까지 다른 분들도 언급을 하셨습니다만, 저는 1998년 서울에서 개최되었던 전경련의 재계회의에서 이 FTA를 제안한 적이

있었습니다. 한일 양국이 FTA를 체결할 필요가 있다고, 제안이라고 하면 너무 거창하게 들릴지 모르겠습니다만, 제가 말씀을 드렸던 기억이 생생합니다. 그때 1998년에 왜 제가 그런 얘기를 드렸는가 하면 아까 김재철 회장님도 말씀하셨습니다만, 역시 투자가 중요하기 때문입니다. 일본의 대미 투자, 미국의 대일 투자, 이 양자간의 투자액이 전혀 다릅니다. 미국의 대일 투자는 600억불 정도에 불과한데 일본의 대미 투자는 2천억불 가까이 됩니다. 이렇게 큰 차이가 납니다. 이것은 역시 일본에 더 많은 해외직접투자를 유치하기 위해서라도 먼저 한국과 하나의 공통된 시장을 형성할 필요가 있다는 생각을 했던 것입니다. 그리고 또 하나는 한일간의 FTA협상을 통해서 한일 양국이 경제구조 자체를 변혁시켜야 된다는 것입니다. 이것이 경제개혁을 위해서 FTA가 하나의 계기가 될 수 있다는 것입니다.

그 당시 1998년에 한국은 IMF 한파로 개혁이 한창일 때였습니다. 그때 제가 느낀 점은 한일 양국이 어떤 공통의 하나의 목표를 향해서 걸어간다는 것, 함께 일을 해나간다는 것이 중요하다는 생각을 했습니다. 극단적으로 표현하면 FTA를 체결할 수 있느냐 없느냐 하는 문제보다도 협상 과정에서 한일 양국이 얻는 것이 크다고 하는 것입니다. 저는 바로 이 부분이 중요하다고 생각하는 것입니다. 이런 노력을 통해서 한일 양국의 파트너십이 강화된다면 우리의 미래도 더욱 밝은 미래가 열릴 것입니다.

그러나 저는 우리에게서 과제가 있다고 생각합니다. 걱정거리도 있습니다. 파트너십을 초월한 비전이 필요하다고 하는 것입니다. 한일 양국이 공통된 비전을 가질 수 있느냐 없느냐 하는 것이 중요합니다. 진정한 파트너십이라고 하는 것은 아마도 미래에 대한 공통비전을 갖느냐 하는 것으로 귀결될 것입니다. 물론 한국과 일본이 공통의 비전을 갖는다는 것, 이것이 그렇게 쉬운 일은 아닐 것입니다. 그러나 한반도 통일 후에 통일 한반도와 일본은 어떤 관계를 형성하면 좋을 것인가 라는 문제, 혹은 일본과 미국과 한국이라는 3개국간의 협력은 앞으로 어떻게 하면 좋은 것인가, 혹은 많은 분들께서 언급하시고 와따나베 이사장님도 언급하셨던 점으로 이 동아시아지역에서 한국과 일본과 중국의 협력은 앞으로 어떠한 모양새를 취하면 좋을 것인가, 이러한 미래에 대한 비전을 양국이 공유할 필요가 있을 것입니다.

그렇다고는 해도 역시 문화교류, 혹은 국제교류라는 일을 제가 하면서 느끼는 것은 젊은 사람들이 중요합니다. 젊은 사람들의 의식이라는 것은 지금 급속도로 달라지고 있습니다. 일본과 한국간에는 지금 국경이라고 하는 것이, 경계선이라고 하는 것이 없어지고 있습니다. 팝, 만화, 드라마 등 많은 분야에서 한일간의

교류가 늘어나고 있습니다. 그런 면에서 한국과 일본 사이에 그어져 있는 경계선이라고 하는 것이 젊은 사람들 사이에서는 의미를 잃어가고 있다는 것입니다.

예를 들어서 저의 경험을 하나 소개해 드리겠습니다. 1998년에 서울에서 월드컵 전이었습니다만, 일본과 한국의 축구시합이 있었습니다. 그때 그 축구경기를 제가 보러 갔는데 한국 고등학교 교복을 입은 학생이 일본측 응원단석에서 응원을 하고 있었습니다. 저는 대사관사람과 같이 그 학생에게 갔습니다. 여기는 일본 응원석이니까 한국을 응원할 거라면 저쪽으로 가서 응원하십시오 라고 말했습니다. 잘못 앉으면 가엾은 일입니까요. 그때 그 여학생이 말한 얘기는 저에게는 놀라운 대답이었습니다. “아니요. 저는 여기서 일본팀을 응원할거예요. 제가 일본을 좋아하거나 일본팀이 좋아서 응원하는 것이 아니예요. 저는 일본팀의 나카타 선수를 응원하러 왔습니다.”라는 얘기를 했습니다. 그 여학생이 나카타 선수의 팬이라는 것입니다. 나카타 선수가 소속된 팀이라면 어떤 팀이라도 그 팀을 응원할 것이라는 것입니다.

저는 그 여학생 얘기를 들으면서 시대가 바뀌었다는 것을 실감했습니다. 일본이다 한국이다 국경이다 이런 것이 젊은 사람들에게는 의미를 잃어가고 있다는 것을 뼈저리게 느꼈습니다. 앞으로 그런 젊은 사람들의 정신이라고 하는 것을 우리는 소중히 다루어 나가야 한다고 생각했습니다. 마지막으로 이런 에피소드를 소개해 드리면서 저의 이야기를 마치겠습니다. 감사합니다.

2. 韓國側 主題發表

「革新主導型 産業政策과 韓日經濟協力」



朴 鳳 圭
産業資源部 次官補

방금 소개받은 산업자원부의 무역과 외국인투자업무를 담당하고 있는 박봉규입니다. 오늘 제36회 한일·일한경제인회의에서 세토 유조 일한경제협회 회장님, 김상하 한일경제협회 회장님을 비롯한 양국의 중요한 경제인들을 모시고 제가 한국의 혁신주도형 산업정책과 양국간의 경제협력방안에 대해서 말씀드리게 된 것을 대단히 기쁘게 생각합니다.

제가 말씀드릴 순서는 크게 세 가지인데 첫째는 한국경제가 최근에 당면하고 있는 여러 여건을 점검해보고, 그리고 한국경제가 왜 혁신주도형 경제로 가야하는지, 그리고 그것을 위해서 한국정부가 취하고 있는 정책에는 어떤 것들이 있는지 살펴본 다음에 양국간의 경제협력에 대해서도 함께 생각해 보도록 하겠습니다.

1. 한국경제의 대내외 여건과 과제

1. 한국경제의 최근 동향

최근의 한국경제는 조금 길게 보서는 저희들이 외환위기 이후 사회 전반에 걸친 강도 높은 구조조정과 무역흑자를 통해서 위기 상황에서는 어느 정도 벗어난 상태라고 진단을 할 수 있을 것입니다. 짧게 보서는 지난해에는 소비, 투자 등 내수부진으로 국내경기가 크게 위축되었으나, 최근 들어 미약하지만 서서히 회복국면에 진입하고 있다고 진단하고 있습니다. 특히 작년 한해는 실질 국내총생산에서 수출과 건설은 상당히 좋았습니다. 그러나 민간소비(7.9→△1.4%)와 설비투자(7.5→△1.5%)가 감소했기 때문에 전체적으로 경제성장률은 3.1% 성장에 머물렀습니다.

작년 한해 한국의 수출이 전체 경제성장에 기여한 비율이 98.2%나 되는 것처럼 수출이 우리 경제성장에 핵심적인 역할을 담당하고 있으며, 이러한 추세는 금년 들어서도 지속되고 있습니다. 최근에는 이러한 수출 호조에 따라 산업 생산이

증가하고 있고, 제조업 가동율도 높아지고 있고 기업인들이 2/4분기 이후에 경제에 대한 전망도 상당히 호전되고 있기 때문에 2/4분기, 3/4분기 이후엔 경제가 전반적으로 조금씩 좋아지리라고 생각하고 있습니다. 다만 여러 번 언급이 되었습니다만, 소비라든지 설비투자가 매우 미약한 것, 그리고 수출은 잘 되고 있습니다만, 이런 수출이 전반적인 내수경기로 확대되는 것이 조금 어려운 점, 그리고 최근에 한국의 많은 기업들이 중국으로 이전하기 때문에 산업공동화의 우려가 있는 점, 청년들의 실업이 높은 점, 그리고 여기 기업인들이 많이 와 계십니다만, 기업인들이 열심히 기업하고자 하는 의욕이 과거에 비해서 떨어졌다고 할까요 정부가 그런 것을 바쳐주지 못한 점, 이런 것들이 저희들이 극복해야할 과제라고 말씀드릴 수 있겠습니다.

2. 한국경제의 대내외 여건

저희들이 앞으로 나가야할 방향을 살펴보기 위해서 한국경제가 당면하고 있는 여건을 보면, 대외적으로는 가장 큰 것이 동북아가 새로운 세계경제의 중심축으로 부상을 하고 또 동북아에서 한국, 일본, 중국 세 나라의 관계를 어떻게 정립해야 할 것이냐 하는 것이 하나의 과제가 된다고 말씀드릴 수 있겠습니다. 특히 중국이 WTO 가입에 따른 개혁·개방 확대와 경제성장률이 연 9% 정도 되고 중국이 “세계의 공장”이다, 나아가서는 “세계의 R&D센타”로 부상함에 따라서 이 지역의 경제를 어떻게 재편해 나갈 것인가 하는 점이 대단히 중요한 과제라고 생각합니다.

특히 일본의 경우도 과거에 상당한 어려움이 있었습니다만, 최근에는 그런 어려움을 극복하고 새로운 도약의 전기를 마련했기 때문에 이 세 나라간에 힘을 합쳐서 동북아가 NAFTA라든지 EU와 대항해서 어떤 협력체를 만들 것이냐, 그리고 이 세 나라 사이의 경제관계를 어떻게 잘 아울러 나갈 것이냐 하는 것이 중요한 과제입니다.

또 기술적인 측면에서 보면 세계경제가 과거에는 자본, 노동과 같은 산업화시대였습니다만, 최근에는 지식이나 기술, 정보가 국부 창출의 원동력이 됨에 따라서 어떻게 하면 지식기반사회로 빨리 진입하느냐 하는 것이 하나의 큰 과제가 되겠습니다. 또 이러한 기술발달에 따라서 산업분야에 있어서도 정보기술(IT), 바이오기술(BT), 나노기술(NT) 등 신기술이 계속 나오고 특히 이러한 기술들이 과거에는 혼자 발전했습니다만, 점점 융합화되면서 새로운 분야로 나가고 있기 때문에 이러한 데에 어떻게 잘 적용할 것이냐, 전통산업과 이런 새로운 기술을 어떻게 접목시킬 것이며, 또는 새로운 기술을 어떻게 발전시킬 것이냐 하는 것이

중요한 과제입니다.

나아가서는 세계경제가 하나의 큰 틀이 되면서 국가간에 있어서도 이러한 지식·기술 경쟁이 치열하게 전개되고 있고, 또한 과거와는 달리 이러한 기술경쟁에서 승리하는 사람이 모든 것을 다 가져가는 사회가 되었기 때문에 어떻게 하면 핵심 원천기술(Breakthrough Technology)을 잘 확보하는가 하는 점이 대단히 중요합니다만, 한국이 일본에 비해서 이러한 분야에서 상당히 미진한 것들이 극복해야 될 과제입니다.

기업들은 자연히 기업환경이 좋은 곳으로 나가기 마련입니다. 제가 조금 전에도 한국의 많은 기업들이 중국으로 나가고 있다고 말씀드렸습니다만, 한국이 기업하기 좋은 환경을 만들어서 우리 한국의 기업은 물론이고 일본에 있는 많은 기업들이 한국에 와서 사업할 수 있는 여건을 어떻게 만드느냐, 또는 저희들이 다른 한편으로는 글로벌스탠다드를 수용하면서 또 다른 한편으로는 한국의 고유한 기업역량을 어떻게 강화해 나갈 것이냐 하는 것이 하나의 과제가 되고 있습니다.

끝으로 정신적인 면에서는 저희들이 95년에 소득 1만불을 달성한 이후에 지금까지 계속 1만불대에 머무르고 있습니다만, 저희들이 국민소득 2만불, 3만불로 가기 위해서는 앞으로 10년 동안 엄청난 노력을 해야되는데 지금 일종의 국민소득 1만불 Trap에 걸려 있는 것을 국민들이 정신적으로나 기술적으로 어떻게 극복해 나갈 것이냐 하는 것도 하나의 중요한 과제입니다.

3. 한국경제의 과제

이러한 전체적인 여건을 바탕으로 해서 조금 중복이 됩니다만, 한국경제가 나아가 할 과제를 살펴보면, 기본적으로 한국은 소위 개방형 통상국가로 나아가 한다고 저희들은 생각하고 있습니다. 이러한 개방형 통상국가가 되기 위해서는 가장 좋은 방법이 다자 채널에서 소위 DDA협상을 통해서 무역이 자유화되고 개방이 확대되는 것이 대단히 바람직하지만 현실적으로 그 분야에 진전이 느리기 때문에 세계 각국의 추세에 맞춰서 저희들도 여러 나라와 FTA를 통해서 교역을 자유화하는 것이 대단히 중요하다고 생각합니다. 이것은 조금 전에 말씀드린 것처럼 미주대륙이 미국과 캐나다, 멕시코를 중심으로 NAFTA로 묶치고 5월 1일부터 EU가 15개국에서 25개국으로 확대됨에 따라서 우리 동북아에도 FTA가 활발하게 논의가 되어야 한다고 생각하고 있습니다.

또 다른 하나는 최근 이렇게 수출은 잘되고 있지만 설비투자가 부진하고 이것

들이 실업을 증대시키는 일자리 창출의 효과가 떨어지기 때문에 어떻게 하면 기업들로 하여금 설비투자를 확대하고 그것을 통해서 일자리를 창출할 것이냐 하는 것이 하나의 과제입니다. 특히 작년에 저희들은 제조업 분야에 있어서는 오히려 과거에 비해서 일자리가 감소하는 경험을 했습니다. 특히 청년들의 실업이 전체적인 실업률에 비해서 배 이상 높은 수준입니다. 그래서 최근에는 설비투자를 확대해서 그것을 통해서 일자리를 창출하고 특히 청년들로 하여금 일할 수 있는 자리를 만들어주는 것이 하나의 큰 과제입니다.

구조적인 면에서 저희 한국경제가 극복해야 될 것은 조금 전에도 말씀드렸습니다만, 수출은 잘되고 있지만 내수는 매우 어렵습니다. 그래서 이 수출과 내수간의 양극화 현상, 또는 산업 내에서도 중화학공업은 잘되고 있는데 비해서 경공업 분야가 취약하다든지, IT산업은 잘되고 있는데 비해서 비IT산업은 잘 안되고 있다든지, 또는 대기업제품들은 수출이 잘되고 있는데 비해서 중소기업제품들은 수출이 취약하다든지 이런 여러 가지 분야에서 양극화 현상을 극복하는 것이 하나의 과제가 되어있습니다.

또 다른 한 측면에서 인력 면에서도 중소기업 산업현장에서는 일손이 부족한 곳이 많은데도 실업률이 높은, 이런 산업인력부분에 있어서의 양적, 질적인 불일치를 어떻게 잘 극복해야 하는가 하는 것이 저희 한국경제가 극복해야 될 과제라고 생각합니다.

II. 혁신주도형 산업정책

1. 추진배경

이러한 과제를 바탕으로 해서 한국경제가 앞으로 살아나아야 될 길을 저희들은 혁신주도형 산업정책에서 찾고자 합니다. 저희들이 혁신주도형 산업정책을 채택하게 된 이유는 경제개발 초기인 70~80년대에는 노동, 자본, 여러 가지 물적요소를 투입해서 경제성장을 달성할 수 있었습니다만, 최근에는 이러한 것들이 전체 경제성장에서 기여하는 비율이 많이 떨어지고 있습니다. 이것은 앞으로 우리 한국사회가 일본과 마찬가지로 고령화사회로 들어가거나 자본과 노동의 생산성이 저하되는 경우에는 어쩔 수 없는, 받아들일 수밖에 없는 추세라고 생각합니다. 그렇게 보면 한국경제가 앞으로 살아가야 될 길은 지식기술을 개발하거나 지식기반경제로 간다든지 부가가치가 높은 상품을 만든다든지 이런 식으로 총요소생산성을 증대시켜서 한국경제가 나아가야 되지 않겠느냐, 그것을 하기 위해서는 혁신주도형 경제로 갈 수밖에 없다고 생각을 합니다.

그런 혁신주도형 경제가 되기 위한 구체적인 방안으로 기존 전통산업의 부가가치를 높이고 앞으로 5년, 10년 후에 저희들이 먹고 살 수 있는 차세대 성장동력 산업을 개발하고, 한국의 경제성장이 과거에는 제조업 중심이었지만 이제는 지식기반서비스산업을 육성하고, 또는 체계적인 면에서 기술혁신 체제를 과거의 공급자 중심에서 수요자 중심으로 바꾸고, 일본을 비롯한 선진국으로부터 외국인투자를 유치하는 등 이러한 다섯 가지 정도의 정책 틀을 활용해서 혁신주도형 경제로 나아가고자 합니다. 이 다섯 가지에 대해서 간단하게 살펴보도록 하겠습니다.

2. 주력기간산업의 고부가가치화 추진

한국은 상당부분에 있어서 특히 주력기간산업, 자동차, 철강 등 전통산업에 있어서는 어느 정도 세계와 경쟁력을 확보하고 있는 산업들이 많이 있다고 생각합니다. 우선 일차적으로는 이렇게 한국이 경쟁력을 보유하고 있는 주력기간산업, 전통산업을 새로운 기술을 접목해서 부가가치를 높이는 것을 가장 첫 과제로 생각을 하고자 합니다. 주력기간산업들이 세계적으로 보유하고 있는 생산설비를 활용해서 수출을 주도하고 앞으로 5~10년 동안 우리 경제의 버팀목 역할을 수행할 수 있도록 해야 할 것입니다. 그래서 구조적인 측면에서는 한쪽에서는 주력기간산업 한쪽에서는 차세대성장산업 그리고 또 한쪽에서는 지식기반산업 이 세 가지 산업이 하나의 축을 이루고, 또 다른 한편에서는 세계적인 경쟁력을 갖고 있는 대기업, 기술력을 갖고 있는 중소중견기업, 훌륭한 기술을 갖고 있는 외국인투자기업 이런 세 가지 그룹들이 또 다른 축을 이루는 산업구조가 바람직하지 않을까 생각합니다.

그래서 이런 주력기간산업의 부가가치화를 위해서 기업간 협업을 통해서 설계부터 구매·생산까지 쉼 제조공정의 정보화(e-Manufacturing)로 생산성을 제고하고, 주력산업의 신기술 접목 및 신기술간 융합화 추세에 대응하여 부가가치를 높이하고자 합니다. 이를 위해서 특히 정부분야에서 할 수 있는 것은 이런 산업일수록 국제간의 표준화에 정부가 앞장서서 지원해야 한다고 생각하고 특히 이런 분야와 관련해서 한일 양국간의 표준분야에 협력할 분야가 많으리라고 생각합니다.

3. 차세대 성장동력의 본격 추진

두 번째는 저희들이 국민소득이 2만불, 3만불이 되기 위해서는 새로운 차세대의 먹거리산업이 있어야 하기 때문에 그것을 발굴해서 육성하는 것이 되겠습니다. 정부에서 작년에 10개 정도의 시범적으로 선정을 해서 육성하고자 합니다. 또 다른 하나는 일본은 이 분야에서 상당히 강합니다만, 한국이 전통적으로 부품

이라든지 소재산업이 상당히 약하기 때문에 이런 산업이 발전하지 않고는 아까 말씀드린 기간산업의 부가가치라든지 차세대 성장동력도 어렵기 때문에 부품·소재산업을 육성하는 것을 하나의 큰 축으로 삼고자 합니다.

다만 차세대 성장산업을 육성하기 위해서는 과거와 같이 정부가 일방적으로 지원한다고 하는 것은 이제 WTO체제 안에서는 있을 수도 없는 일이기 때문에 이러한 산업들은 기업들이 앞장서서 하고 다만 정부는 기술개발을 한다든지 인력을 양성하는 등 기반을 제공하는 쪽에 역점을 두도록 하겠습니다. 특히 부품·소재라든지 이러한 차세대 성장동력을 발굴함에 있어서는 한국의 정부나 기업 혼자만 안되기 때문에 외국의 우수한 기술을 갖고 있는 기업들과의 국제협력도 더욱 강화해 나가고자 합니다.

4. 지식기반서비스산업의 경쟁력 제고

세 번째가 지식기반서비스산업의 경쟁력을 제고하는 문제입니다. 과거와 같이 제조업 위주의 산업화로서는 앞으로 제조업이 장기적으로 발전하는데 지식기반서비스산업이 제대로 육성되지 않고는 제조업 혼자만 중장기적으로 발전하는데 한계가 있다고 생각합니다. 그러나 과거에 한국은 너무 제조업 위주의 성장정책을 펴왔기 때문에 지식기반서비스업이라든지 여타의 서비스산업은 제조업에 비해서 상대적으로 여러 측면에서 불리한 면이 있었던 것이 사실입니다.

그래서 앞으로는 이런 서비스산업에 대해서도 제조업 지원에 상응할 수 있도록 조세 감면과 같은 지원을 확대하고, 특히 최근에 한국이 상당히 강하게 부상하고 있는 IT기술을 활용해서 전반적으로 서비스산업의 경쟁력을 제고해 나가고자 합니다. 이를 위해서는 서비스산업에 대한 규제를 철폐하는 문제나 서비스산업에 대해서 대외 개방을 확대함으로써 국내기업도 외국기업과의 경쟁을 통해서 스스로 경쟁력을 높일 수 있도록 해나가고자 합니다. 예를 들면 광고, 물류, 회계, 컨설팅, e-비즈니스와 같은 분야가 이에 해당할 수 있습니다.

5. 성과중심의 산업기술혁신체계 구축

한국이 기술개발 체제를 과거의 공급자 중심에서 수요자 중심으로 바꿔 나가고자 합니다. 국민소득 2만불을 달성하기 위해서는 조금 전에 말씀드렸던 그런 정책도 중요하지만 그런 정책을 어떻게 효율적으로 추진하느냐 하는 것도 대단히 중요한 과제라고 생각합니다. 한국의 경제규모가 성장함에 따라서 R&D 금액 자체는 상당히 컸지만 그것이 얼마나 효율적으로 집행되고 있느냐 하는 부분에 대

해서는 아직도 개선의 여지가 많다고 생각합니다. 그래서 이러한 R&D 투자가 구체적인 산업경쟁력으로 될 수 있도록 공급자 중심의 기술혁신체제를 기업이나 학계 등 수요자들의 의견을 들어서 그 분들 중심으로 기술개발체제를 바꾸어 나가하고자 합니다.

6. 외국인투자기업 지원을 통한 성장잠재력 확충

마지막으로 외국인투자를 빼놓을 수 없습니다. 한국이 외환위기 이후에 그것을 극복하는 과정에서 외국인투자가 대단히 중요한 역할을 했습니다만, 이것은 앞으로도 계속 그러하리라 생각합니다. 그래서 한국은 작년에도 저희들이 외국인투자와 관련해서 여러 가지 제도를 개선했습니다만, 한국정부는 정책의 일관성, 투명성을 가지고 외국인투자에 관해서 지속적인 인센티브를 제공하면서 유인하고자 합니다. 특히 금년에는 작년에 개선된 여러 가지 제도를 중심으로 해서 일본과 여러 가지 프로젝트가 진행되고 있기 때문에 그런 프로젝트가 구체적으로 하나 하나 성사되는데 저희들이 역점을 두고, 특히 일본기업인들이 많이 얘기하시는 한국의 경영여건이나 생활여건이 선진국만큼 개선되어야 하지 않겠느냐 하는 쪽에도 역점을 두고자 합니다. 저희들이 작년에 서울재팬클럽의 협조를 받아서 생활여건 분야에 있어서는 교육, 주거, 의료, 교통, 출입국, 문화/통신 등 102개 과제를 발굴하고, 일반적인 경영환경분야에 있어서는 조세, 금융, 외환 등에서 36개 과제를 발굴해서 그 과제를 추진해 나가고 있습니다. 물론 여기에는 금년 한 해에 다 되지는 않겠습니다만, 한국정부는 이런 과제들을 차질 없이 추진함으로써 외국기업들이 한국에 와서 경영을 하기에 좋은 환경을 만들고 외국사람들이 한국에 와서 생활하는데 불편함이 없도록 해 나가하고자 합니다.

III. 한일 경제협력

1. 한일 교역현황

세 번째 파트로 한일 양국간의 경제협력관계에 관해서 잠깐 언급을 하고자 합니다. 여러분들이 말씀을 하셨습니다만, 양국간의 교역규모라든지 경제협력은 그 중요성을 아무리 강조해도 지나치지 않으리라 생각합니다. 양국간의 이런 문제는 어디까지나 경제적인 측면에서 기업인들의 노력으로 전체적으로 풀려가야 한다고 저는 생각합니다만, 그러나 한일 양국간의 역조문제에 관해서는 언급을 하지 않을 수 없습니다. 아까 와타나베 JETRO 이사장님께서도 좋은 말씀을 하시고 여러분이 말씀을 하셨는데, 기본적으로 양국간의 역조문제는 경제적으로 해결되어야 됩니다.

한국정부의 입장에서 이 것이 양국간의 경제력 격차라든지 일본부품을 수입해서 한국에도 도움이 된다는 것을 부정하는 것이 아니고, 또 과거처럼 저희들이 수입선다변화정책이라든지 제도적인 장치를 통해서 해결하고자 할 생각도 없습니다. 그러나 한국에서부터 1년에 약 200억불, 작년에 저희들이 전체적인 흑자보다도 훨씬 더 많은 적자를 일본에 내고 있는데 이러한 적자가 계속된다고 하는 것은 양국간의 장기적으로 건전한 경제관계 발전에 결코 바람직하지 않으리라고 생각합니다.

저희들이 생각하건대 일본도 할 일이 많이 있다고 생각합니다. 하나만 예를 들면 이렇게 많은 흑자를 보는 나라에서 한국이 일반적으로 경쟁력을 갖고 있다고 생각하는 1차상품 농수산물이 되겠습니다만, 이러한 분야의 관세는 일본의 평균관세율보다도 대단히 높습니다. 한국이 경쟁력을 갖고 있는 상품에 대해서 일본의 관세율이 높은 분야가 많습니다. 한국이 경쟁력을 갖고 있는 1차상품에 대해서 일본은 수입쿼터라든지 자율규제와 같은 비관세장벽을 운영하고 있는 부분도 많이 있습니다. 그래서 이런 부분에 대해서는 기업인들이 하시는 것은 아닙니다만, 기업인들과 일본정부가 함께 이런 부분은 개선해 주는 것이 중장기적으로 역조개선에 도움이 되고 그것이 나중에 FTA를 한다든지 양국간의 경제교류를 장기적으로 확대하는데 도움이 된다고 하는 것을 강조하고자 합니다.

2. 한일투자현황

일본의 투자에 대해서는 일본이 한국에 많이 투자를 하고 있고, 금액뿐만이 아니고 특히 저희들이 고맙게 생각하는 부분은 미국이나 유럽 쪽에는 대개 인수합병형 투자가 많습니다. 한국의 기업을 사서하는 M&A형 투자가 많은데 많은 일본기업들은 직접 돈을 갖고 와서 한국에서 공장을 짓고 하는 제조업분야에 소위 그린필드형 투자가 상당히 많은 것은 저희들이 대단히 고맙게 생각하고 그런 부분은 앞으로도 더 확대 발전될 수 있으리라고 생각합니다.

특히 최근에 외국인투자와 관련한 하나의 패턴은 한국에서 자동차산업, 디스플레이 산업부품분야의 수요가 늘면서 많은 일본의 부품·소재기업들이 한국에 와서 직접 공장을 지어서 한국의 대기업들에게 납품을 한다든지 하는 이러한 추세 많이 나타나고 있는데 이것은 한국으로써도 좋은 일이고 일본의 부품·소재기업으로써도 대단히 좋은 일이라고 생각을 하고, 그렇게 오는 기업들에게는 저희들이 모든 지원을 다해서 한국에서 사업이 잘 될 수 있도록 도와드리고자 한다는 말씀을 전하고 싶습니다.

여기 타카스키 노부야씨도 와계십니다만, 저희들은 전체적인 외국인투자제도 외에 특히 일본기업에 대해서는 서울재팬클럽을 통해서 일본기업의 애로를 청취한다든지 또는 Invest KOREA에 특별히 노무담당가를 지정해서 일본기업들의 노사문제를 상담해 드린다든지 그런 사항이 있을 경우에는 해결하도록 노력한다든지 해서 일본기업들이 제조업 분야에 있어서 한국에 와서 투자하는 경우에는 저희들이 각별히 더 관심을 갖고 지원을 하겠다 하는 말씀을 드립니다. 특히 작년에 한일 양국간에 투자협정도 체결되고 했기 때문에 제도적인 면에서는 모든 장애가 없어졌고 그런 인센티브를 활용하고 노사문제도 앞으로 좋아지고 하면 일본기업들의 더 많은 관심을 부탁드립니다.

3. 한·일 FTA

마지막으로 한일FTA에 관해서 잠깐 살펴보도록 하겠습니다. 기본적으로 한일 FTA는 아까 말씀드렸듯이 세계적인 경제블록화 추세에 대응하고 한일 양국간의 역내교역이나 투자를 활성화하고 양국간의 경제성장을 촉진하는데 있어서 반드시 필요한 일이라고 생각합니다. 또 전체적인 동북아 경제협력체를 만들기 위해서는 한일 양국간에 우선 경제적 공동체를 구축함으로써 앞으로 이루어질 동북아 경제협력의 선도적인 역할을 하는 것이 중요하다고 생각합니다. 이런 측면에서 지금 논의가 되고 있습니다만, 양국간의 FTA를 내년 말까지 타결하는 것으로 목표 협상이 진행되고 있는 것은 대단히 다행스럽게 생각합니다.

그러나 항상 이런 협상에서는 승자산업과 패자산업이 있기 마련입니다. 그것은 일본도 마찬가지고 한국도 마찬가지입니다. 그래서 한국의 산업계에서는 전반적으로는 한일FTA를 통해서 무역과 투자가 활성화되고 한국의 산업도 장기적으로 경쟁력이 강화되리라고 하는 데에 대해서는 동의를 합니다만, 양국의 관세율 차이가 큼니다. 또는 일본의 산업경쟁력이 한국의 산업보다 전반적으로 강합니다. 이런 여건을 바탕으로 두고 볼 때에 지나치게 빠른 양국경제의 통합, 내지는 FTA 체결은 대일 무역적자가 더욱 확대되고 한국의 경쟁력이 취약한 산업이 크게 피해를 볼 것이라는 우려를 하고 그런 부분에 대해서 반대의 목소리가 많은 것도 사실입니다.

따라서 한일FTA를 통해서 함께 이익을 얻고 FTA 효과를 극대화하기 위해서는 일본기업으로서도 한국에 투자를 더욱 확대하고 제가 아까 말씀드린 한국의 상품이 일본시장에 더 많이 들어올 수 있도록 관세율을 낮춘다든지 비관세장벽을 없애는 등의 조치를 취하고, 또 양국간 기업들이 협력해서 여러 산업분야에서 협력할 수 있는 분야를 더 많이 발굴해야 하지 않을까 생각합니다. 이것이 중요한

이유는 FTA 협상이라는 것은 양국 정부간에 체결하는 것만이 전부가 아니고 그것이 구체적으로 시행되는 과정에서 양국 국민을 설득하고 양국 기업을 설득해야 하기 때문입니다.

한국이 칠레와 FTA를 맺으면서 국회 비준하는 과정에서 농민들을 설득할 때 상당히 애를 먹었습니다. 그래서 한일FTA 부분에서도 저희들이 기업과 국민들을 설득하기 위해서라도 실제 이것이 양국경제에 함께 도움이 되는 방향으로 기업인들은 물론이고 협상에 참여하는 정부도 함께 지혜를 모아야 한다고 생각합니다.

전반적으로 양국간의 경제협력은 여기에 모이신 기업인들께서 앞장서서 해주시는 것이고 정부의 룰은 그런 기업인들이 경제협력을 강화하는데 애로가 있는 상황을 해결해준다거나 또는 인프라를 깔아 주는 것이라고 생각합니다. 그런 측면에서 오늘과 이런 자리가 양국 기업간에 더 좋은 산업협력이 모색되고 양국 정부가 그것을 뒤에서 지원해 줄 수 있는 좋은 장이 되었으면 하는 바램을 끝으로 말씀드리면서 제 말씀을 마치도록 하겠습니다. 고맙습니다.